

興亞機械工業

【設立】昭和十四年十二月
【決算期】四月 十月

（本社）奈良市横領町一〇〇
（事務所）大阪市大淀区浦江北三ノ五〇

【減資考慮】軍補打切に伴ふ損失は約六百萬圓乃至七百萬圓の見込で、これが整理には堅實政策の意味から、九割減資が考慮されている。
【生産懸念】奈良工場は進駐軍に借上げとなつたが、浦江工場を主力として、浦江でハブシンハブ、大和田でフリーホキルの生産に當り、既に軌道に乗つた。收支相償ふのもさして遠い事ではなからう。

【事業】自轉車部品、工作機械	【重役】社長 淺沼商事 一、七〇〇
【資本金】公稱 五、〇〇〇	專務 古庄 榮國 七〇〇
【株数】新(五〇) 五、〇〇〇	取締役 金子 次郎 五〇〇
【株主】新(三三) 六〇、〇〇〇	守義 相談 松方 五郎 五〇〇
同本店 三三、三三〇	【業績】純益 同率 配當
明電舎 三三、三三〇	【業績】純益 同率 配當
榮國嘉七 三三、三三〇	【業績】純益 同率 配當

大阪金屬工業

【設立】昭和九年二月
【決算期】三月 九月

（本社）堺市耳原町一三〇（電堺四二〇七）
（事務所）大阪市東區北濱五（電福島三三〇）

【特別損失】軍補打切による損失七千九百九十九萬一千圓の内、積立金、評價替等により五千八百六十五萬八千圓を補填。残額は遊休化した大和川工場を賣却して埋められる。
【今後】冷凍機、フレオンガス等の製造は好調で、近く月一十萬圓程度の賣上を確保出来る見込だ。そこで目下申請中の堺工場の賠償指定除外が實現すれば、前途は頗る安泰となる。

【事業】冷凍機其他製造	【重役】社長 山田 晃
【資本金】公稱 六〇、〇〇〇	專務 明田 重義
【株数】新(五〇) 六〇、〇〇〇	取締役 岡村 一夫 樹田
【株主】新(三三) 一、六三三名	定司 飯田 勝藏 常監
扶桑金屬 三四五、八〇〇	笠井 清八 同率 配當
山田晃 三三〇、〇〇〇	【業績】純益 同率 配當
川崎航空機 七五、六〇〇	【業績】純益 同率 配當
戦時金融金庫 七五、六〇〇	【業績】純益 同率 配當

芝浦工機

【設立】昭和十三年十二月
【決算期】三月 九月

（本社）東京都中央区銀座二ノ三（電京橋四九二五）
（出張所）大阪、名古屋

【再建】當社は制限會社であり、特經會社である。更に綱干工場の電氣設備が賠償に指定されている。特別損失七千八百萬圓の補填のためには外部負債四割程度の切捨てはまぬがれぬ第二會社の聲もあるが、會社當局はこのまゝで存続したい意圖をもつてゐる。
【將來に期待】當面の收支は赤字だが、生産意欲向上は心強く、九月頃には赤字克服か。

【事業】印刷機械、電氣 冷蔵庫、煙草機械、木工機械、其他	【重役】社長 佐藤 武夫
【資本金】拂込済三、〇〇〇	專務 中村 和夫
【株数】(五〇) 三〇〇、〇〇〇	取締役 小平 芳男 大澤
【株主】三三五 七名	貞治 寺岡 恭次郎 藤
東京芝浦電氣六八、六〇〇	田一郎 高橋 良節
日本電興 六〇、〇〇〇	監査 龜山 英
其他 一、四〇〇	【業績】純益 同率 配當

東洋製罐

【設立】昭和十六年七月
【決算期】三月 九月

（本社）東京都千代田區内幸町二ノ三（電銀座三六〇一三）

【貿易再開と當社】製罐では全國の百パーセント近くを占めている當社にとつて、貿易再開は朗報である。ブリキ不足のため難罐紙罐にも進出、月の賣上千五百萬圓を突破している。
【減資せず】特別損失は九千三百七十萬圓計上されようが、積立金、處分益、棚卸資産で十分補填は可能。ブリキ輸入が實現すれば、いよいよ本領發揮となる。

【事業】各種空罐容器、木材並ニ木工品	【重役】社長 小野 耕一
【資本金】拂込済三、五八〇	專務 松本 義一
【株数】(五〇) 一、六八二名	取締役 川正 雄 堀越 一三
【株主】三三四 一六六、三三〇	有賀 松夫 常務 吉
日魯漁業 一六六、三三〇	取締 堤清 七 宮崎
小林合名 四八、四八五	顧平 監査 前澤 織衛
東洋共榮 二二、九四九	【業績】純益 同率 配當
東洋罐詰専修學校 一五、七〇〇	【業績】純益 同率 配當

日飛産業

〔設立〕昭和九年十月
〔決算期〕四月 十月

〔本社〕横浜市磯子區富岡町三一四三
〔支社〕山形市磯崎町四二一

〔特別損失〕一億五千三百四十七萬二千圓、舊勘定果實六千六百二萬八千圓を引くと八千七百四十四萬四千圓残る。資本九割、債權六割の切捨になるわけだ。

〔別會社から第二會社〕既に資本金十九萬五千圓の別會社日幸商事を設立しており、各工場もこの線に沿う豫定で、債權者さえ承知すれば別會社を第二會社に切換える方針だ。

【事業】農器具、日用器具の製販	【重役】専務 山田重行 常務 劉優殿 取締役 栗原武夫 關谷利夫 後藤啓一 小島清壽 監査 加賀孝徳
【資本金】拂込済三〇、〇〇〇 【株数】(五〇) 六〇〇、〇〇〇 【株主】(三三) 八七六名	【業績】純益 同率 配當
扶桑金屬 八九、六〇〇 東北興業 七九、二〇〇 戦時金融 六八、三〇〇 安田銀行 二六、〇〇〇 安田火災 二四、〇〇〇	【業績】純益 同率 配當

日本タイプライター

〔設立〕大正六年五月
〔決算期〕四月 十月

〔本社〕東京都中央区寶町一ノ二

〔九割減資〕當社の補償打切り損失及昨年八月十日決算までの繰越損を併せ一億七千六百萬圓餘に上る。之に對し議積立及繰越金は一千萬圓に過ぎぬ。棚卸資産二千百萬圓の評價益はせいぜい五千萬圓を出でぬであろう。従つて資本金の九割二千四百萬圓を減資し、さらに債務五割程度の切捨を必要とする。事業は本年に入つて立直り傾向にあるから整理は徹底すべきだ。

【事業】タイプライター、事務用品	【重役】社長 成森省三 常務 本間虎治 取締役 務 中西賢爾 柳田良作 下郷義通 柳田良作 深江彦市 三輪徳三 常務 登山録郎 監査
【資本金】拂込済二七、〇〇〇 【株数】(五〇) 五四〇、〇〇〇 【株主】(三三) 一、五七一一名	【業績】純益 同率 配當
三和銀行 三九、八〇〇 安田銀行 三三、五〇〇 日本銀行 三〇、〇〇〇 日本生命 二五、〇〇〇 日本生命 一八、三三三	【業績】純益 同率 配當

石川島産業

〔設立〕昭和六年九月
〔決算期〕四月 十月

〔本社〕横浜市磯子區富岡町字昭和町三一七四
〔電長者町一六五五〕

〔再建の状況〕特別損失一億三千六百萬圓との相殺勘定が二千百萬圓都合一億千五百萬圓が資本九割債權の六、七割に喰込むのだが、當社も「日飛産業」と同じ行き方で横濱メリヤス機械製作所、横濱電金屬機器いずれも資本金十五萬圓の別會社を設立済みで、債權者との話合次第で別會社を土臺とする第二會社で再建を行う方針の模様である。

【事業】紡織機械製造、自動車修理、電氣、鍍金工事	【重役】社長 笠原逸二 常務 林通俊 取締役 村上敏郎 佐野喜平 野中經雄 監査 中 山正則
【資本金】拂込済二五、五〇〇 【株数】(五〇) 三〇〇、〇〇〇 【株主】(三三) 四七名	【業績】純益 同率 配當
石川島重工業 五〇、〇〇〇 神田七太郎 二、八八三 野野久太郎 一、九二〇 神田孝一 一、六八四	【業績】純益 同率 配當

日本鍛工

〔設立〕昭和十二年八月
〔決算期〕五月 十一月

〔本社〕東京都中央区西八丁堀一ノ六
〔電京橋〇八元・二五五・四二〇〕

〔整理〕特別損失は概算七千萬圓、之に對し積立金は一千萬圓で、流動資産の評價益は手持の大半が特殊鋼で望めない。従つて資本金の九割二千七百萬圓は當然切捨られ、債務七千六百萬圓も四割餘打切りが不可避だ。

〔今後〕事業は自動車用鍛造を主とし、炭鐵用チェーン等だが全工場が賠償指定にかゝり、今後の見通しも立てられない有様だ。

【事業】鍛工品	【重役】社長 柴柳新二 常務 井上治 取締役 井四郎 取締 岩田 清藏 久保田一 監査 山下太郎 温 美登志男
【資本金】公稱 三〇、〇〇〇 【株数】(五〇) 二二〇、〇〇〇 【株主】(三三) 三九〇、〇〇〇	【業績】純益 同率 配當
新(三七・五) 三九〇、〇〇〇 【株主】(三三) 一、六四四名	【業績】純益 同率 配當
戦時金融 三六、九二五 日本冶金工業 三三、四〇〇 日本冶金工業 二〇、〇〇〇 野村信託 二〇、〇〇〇 日本投資信託 一四、七〇〇	【業績】純益 同率 配當

東京鍛工所

【設立】大正七年四月
【決算期】五月十一日
(本社)品川區北品川三ノ二二六
(電大崎〇四六)

【轉換】從來の自動車鍛造一本槍から船舶機關部品其他工具類に進出した。自動車鍛造は目下餘剩状態にあり、しかも採算は他部門の方が有利であるという條件からだ。

【前途】年初以降の業績は電力制限、燃料難からずつと赤字續きだが、四月よりは立直り傾向にある。資材は手持があるので心配ないが燃料の入手如何が業績を左右する。

【事業】鍛造業
【資本金】拂込済一五、〇〇〇
【株数】(五〇) 三〇〇、〇〇〇
【株主】(三〇) 八二〇名
チーゼル自動車四九、七〇〇
戦時金融庫三、〇〇〇
富士産業金庫三、〇〇〇
東京機械製作所二〇、〇〇〇
新日本生命一一、〇〇〇

【重役】社長 池貝杉二
常務 沖信治 鈴木
正取 笠井秀夫
星野 順一 三吉求馬
監査 小野富雄 藤
波喜久壽

【業績】純益 同率 配當
三・五二 一・二五
三・八二 三三三〇・七九

大阪機械製作所

【設立】大正九年二月
【決算期】三月九日
(本社)大阪市西淀川區佃町エノ八
(電淀川二三一四)

【業績】終戦後直ちに紡機製造に轉換し目下着々と業容を整備しつつある。成績は既に黒字となつてをるので、今後は逐次増産を示すものと期待される。

【前途】當社の戦補損失額は賠償工場を含めて約千三百萬圓である。積立金と手持品の評價益で充分埋められる。近く特經會社から脱却すれば復配が期待される。

【事業】諸機械製作
【資本金】拂込済三〇、〇〇〇
【株数】(五〇) 四〇〇、〇〇〇
【株主】(三〇) 二、八八五名
山田多計治 六四、六六〇
帝國精密工業 一九、〇五〇
閉鎖機關 一七、〇七〇
三和銀行 三、五六三
内外結 三、三〇〇
共榮會 八、四七七

【重役】社長 山田外計
治 取締 山田又司
岡崎 三郎 高野仁慈
山口 順忠 坂井新次
監査 星野 慎藏 阿部
部 繁一

【業績】純益 同率 配當
三〇・九一 三・二五 一・二九
三・五二 一・二八

日本燃料機

【設立】昭和十五年四月
【決算期】三月(年一回)
(本社)東京都港區芝田村町五ノ八(電芝二二二)
(支店)大阪市福島區上福島南二ノ三〇

【整理】戦時中と同じくガソリン不足、代燃機の需要は多い。當時の放漫經營がたゞり、大整理を要する。補償打切による損失二千萬圓、積立金、評價益、費却益を差引いても七百萬圓は補填不可能、加うるに三千六百萬圓の負債がある。結局八百六十萬圓減資が落ちるか。

【業況】工場は草加、大阪、大分が主力、従業員一千名、相當の經營刷新が必要である。

【事業】代用燃料及同部
【資本金】拂込済一八、六二六・五
【株数】(五〇) 五七三、五三〇
【株主】(三〇) 一、〇二三名
日本物産 三三、七六六
田中龜一 三三、〇三〇
閉鎖機關 一八、二七〇
日本新炭 一五、〇〇〇
豊谷鐵工 一三、五八〇

【重役】社長 池田權次
常務 水谷重三
長坂 悦郎 矢定專一
郎 岩田志郎 後藤末二
渡邊 良稻 藤 隆二
中久保 新太郎 所 敬之
山下 又三郎 所 敬之
【業績】純益 同率 配當
三・三三 三・六九
三・八二 三・八八 四・二八

日本ビストンリンク

【設立】昭和九年十二月
【決算期】五月十一日
(本社)東京都港區芝新樓田町一七
(電銀座七九〇一三)

【評價益補填】要補償額は合計二千九百萬圓で利益保留八百萬圓並に積立金を崩し、過半は評價益で補填する方針である。

【減資が妥當】川口工場が船用、與野工場が自動車用のビストンリンクを夫々製作して漸く業況も軌道に乗りつつある。しかし、戦争末期に建設した古河工場の轉換が見透し難である。この際、減資して身輕になるのが將來の爲だ。

【事業】ビストン製造
【資本金】公稱 三〇、〇〇〇
【株数】(五〇) 一七、三三〇
【株主】(三〇) 二六〇、〇〇〇
新(三・五) 三三〇、〇〇〇
戦時金融庫 六四、八六〇
前川善市郎 二〇、〇〇〇
日本リンク興業 一九、一五〇
日本證券 一五、〇八〇

【重役】社長 野村生命
専務 田所 鈴木友調
清太郎 伊藤 遠山
常務 鏡山 忠男
監査 山 忠男
【業績】純益 同率 配當
三・八一 一・〇三 三・一〇

東亞金屬工業

〔設立〕大正十四年五月
〔決算期〕三月 九月

〔本社〕神戸市生田區榮町六ノ六
〔事務所〕兵庫縣加古郡二見町福里(電二見二〇)

〔減資〕二十年下期の總會で、八百萬圓に減資を決定したが、特殊な事情で未だ正式にその運びとなっていない。當社の特損額は大きく約五千萬圓と見込まれる。資産の評價替えだけでは及びもつかぬ。加えて設備の賠償問題もあり大整理は避けられない模様だ。現在比較的好調裡にある土山工場を中心として第二會社設立の方向に向うのではあるまいか。

〔事業〕機械農具
〔資本金〕拂込済一六、五〇〇
〔株数〕(五〇) 三三〇、〇〇〇
〔株主〕(五〇) 一、六五五名
大日本紡績 一六九、七〇〇
閉鎖機關(戦金) 一、三三〇
富田保太郎 三、七七〇
古松拓治 三、四九〇
平松大司 三、三八〇

〔重役〕會長 黒田高三
社長 廣戸忠吉
専務 石原賢吉
常務 谷巖 富田保次
取締役 堀口純郎
取締役 純益 同率 配當

大隈興業

〔設立〕大正七年七月
〔決算期〕三月 九月

〔本社〕名古屋市中區辻町字日進(電東二四九五)

〔現狀〕諸経費の昂騰で、原價割れを來たし僅かながら赤字の模様である。製品價格の引上げ以外に對策はない。受註状況は良好で、現在約一ヶ年分の受註残高をもつてゐる。
〔前途〕補償打切りによる損失の補填は積立金と棚卸資産の評價替で可能である。併し賠償問題の成り行き如何は相當問題である。本社と小倉を除く四工場が指定されているからだ。

〔事業〕機械器具製造
〔資本金〕公稱 二〇、〇〇〇
〔株数〕(五〇) 二〇〇、〇〇〇
〔株主〕(五〇) 一、三三三名
閉鎖機關 四六、七〇〇
大隈第一 二八、四三〇
東海銀行 一六、八〇〇
親愛商事 一五、六六〇

〔重役〕會長 大隈榮一
社長 村岡嘉六
大隈學 村岡常務
大隈武雄 前川芳之輔
取締役 純益 同率 配當
取締役 同率 配當

高砂鐵工

〔設立〕大正十二年十一月
〔決算期〕三月 九月

〔本社〕東京都港區芝今入町三(電銀座六二八六九)

〔倍強増資〕この六月實に七年振りの増資を實現した。倍強の一千五百萬圓に資本金を改めたが、戦時中の借入金返済だ。
〔六分配當〕三月期利益率一割八分三厘で六分配當を復活したが、業況は終戦によつて寧ろ好調に轉じ、増資後も現配當は持続可能だ。轉換草津工場が自轉車製作、殊にその部品製作に注力する點で期待されている。

〔事業〕蒸延、ポンプ、放熱器、自轉車及部品
〔資本金〕拂込済一、〇〇〇
〔株数〕(五〇) 〇〇〇、〇〇〇
〔株主〕(五〇) 四九九名
日本生命 五、〇〇〇
高砂企業 一、九、七〇〇
明治製糖 八、〇〇〇
富國徴兵 五、〇〇〇

〔重役〕社長 原繁造
常務 舟橋清 船橋田
四郎 宇都宮利衛
前山敏雄 取締 衛田
井久吉 中川蕃 監査
取締役 純益 同率 配當

ワシノ製機商事

〔設立〕昭和十二年三月
〔決算期〕五月 十一月

〔本社〕名古屋市中區岩井通三ノ十九(電本局一八三六)

〔事業内容轉換〕當社はミシン、映寫機、露絲機(繰絲機)の大量生産に着手する準備を進めている。當社は戦前、戦時を通じて精密機械の生産に主力を注いで來たが、最近に至り漸く右の諸製品の試作を終えて、いよいよ本格的な生産を進めることになつた。當社は二月末の假締切で約六十萬圓の赤字を計上したが、今後生産が軌道に乗れば經營面も餘裕を生じよう。

〔事業〕各種機械器具製造並販賣
〔資本金〕拂込済一、二五〇
〔株数〕(五〇) 二五〇、〇〇〇
〔株主〕(五〇) 七六六名
野野久介 二〇、〇〇〇
野野卯八 二〇、〇〇〇
野野精文 七、〇〇〇
愛知起業 六、三三三
菅野茂三 五、〇〇六

〔重役〕社長 野野卯八
副社長 野野三
村瀬傳一郎 川村辰吉
今坂銅一 田次郎
上田鐵哉 堅田竹次郎
取締役 純益 同率 配當

朝比奈鐵工所

【設立】昭和十四年四月
【決算期】三月 九月

（本社）東京都港区芝通新町三（電三田二二一）
（工場）保谷、藤枝、起、岐阜

【打撃甚大】當社は四工場とも機械設備が賠償に指定されたが、岐阜製作所のみ解除になつた損失は軍需補償も引つくるめて三千萬圓に上る結局資産の賣却により補填される模様。

【分離傾向】以上の結果會社の主體は殆どなくなるが、既に保谷製作所を除き各工場とも別會社に分離しつつある。子會社はいづも好調だが當社はこれを強みとしてゐる。

【事業】印刷機械、農器

【資本金】公稱 一五、七五〇

【株數】舊(五〇) 一六五、〇〇〇

【株主】二、八 一五〇、〇〇〇

朝比奈幸太郎 四八、一五〇
戰時金融 金庫 三六、八七〇
渡邊甚吉 二六、九〇〇

【重役】社長 朝比奈幸太郎 常務 酒井敏夫 取締役 渡邊良吉 監査 山田洋 濱田初次郎

【業績】純益 同率 配當 二・八 一、二二二・五六

石産精工

【設立】大正六年五月
【決算期】三月 九月

（本社）大阪府豊能郡庄内町字菖江（電豊崎一六八）
（出張所）東京都千代田區麹町丸ノ内

【大整理が必要】當社の打切り損は約千二萬圓の多きに達し、剩え、三國、大和田の兩工場が賠償に指定されている。重大な問題と云う外ない。従つて、除外申請如何が極めて注目されるが、これは勿論豫測が許されない。賠償問題を論外としても當社の整理は困難で、二千萬圓の穴埋めのためには最大限の資本の切捨てを行うか、第二會社でも設立せねばなるまい。

【事業】粗碎機、粉碎機

【資本金】公稱 一五、〇〇〇

【株數】舊(五〇) 一〇〇、〇〇〇

【株主】三、九 二、一八〇名

石原新三郎 五七、七〇〇
閉鎖機關(戰) 一七、八五〇
閉鎖機關(日) 七、八五〇

【重役】社長 石原新三郎 常務 石原新三郎 取締役 林田七郎 上田商人 清住慶之助 銀治谷二郎

【業績】純益 同率 配當 二・九 一、一〇五

日本バルブ製造

【設立】昭和八年十一月
【決算期】五月 十一月

（本社）東京都中央区銀座西（電銀座三、八八〇—）
（出張所）大阪市西區土佐堀通一ノ

【減資せず】三工場のうち二工場を焼失、さらに主力千葉工場も一部被害をうけ打撃甚大だが補償打切り損千二百五萬圓は積立金六十七萬圓と棚卸資金三百四十一萬圓の評価引上げで補填し減資しない方針である。

【漸次好轉】主力工場と焼失工場の復舊で月二百萬圓の買上げに達し五分の純益として半期六十萬圓で復配は遠いが業態は漸次恢復する。

【事業】バルブ、コック

【資本金】公稱 一〇、〇〇〇

【株數】舊(三三) 七、五〇〇

【株主】三、五 一〇〇、〇〇〇

三井造船 四七、八七〇
閉鎖機關 二七、〇三〇
住友生命 八、九〇〇
太田合名 五、八九〇
大正生命 四、〇〇〇
重役 會長 橋本寛一
社長 原亮一 取締役 伊藤定勝 生井正一
伊藤定勝 生井正一
伊藤定勝 生井正一
伊藤定勝 生井正一

東亞バルブ

【設立】昭和十五年四月
【決算期】三月 九月

（本社）大阪市北區梅田一（電福島一八七）

【大整理】特別決算に計上された當社の要整理資産は、戦保五百六十萬圓、特殊借入金及特殊預金七百萬圓、軍需設備勘定百七十萬圓でこの外繰越損百五十萬圓を合すると總額は千五百萬圓以上に達する。これに對し、積立金は五十萬圓で問題にならず、流動資産の評価益もせいぜい三、四百萬圓を出ないと見られるから當然大整理は免れぬ。

【事業】バルブコック製

【資本金】公稱 一〇、〇〇〇

【株數】舊(五〇) 一〇〇、〇〇〇

【株主】三、八 一六〇名

太田常太郎 二一、五九〇
三菱商事 一〇、八〇〇
三菱重工 一〇、八〇〇
三菱商工 一〇、八〇〇
三菱石油 六、〇〇〇

【重役】社長 太田常太郎 常務 深谷清造 取締役 原田道男 取締 谷義春 常監 山下眞吾

【業績】純益 同率 配當 三・〇 一、〇八二

三・〇 一、〇八二
三・〇 一、〇八二
三・〇 一、〇八二
三・〇 一、〇八二

旭大隈産業

〔設立〕昭和七年七月
〔決算期〕三月 九月

(本社)愛知縣東春井郡旭村
(電愛知旭五〇・五五・五七)

〔現況〕電機部品、製粉機等の生産で今日まで操業して来た。現在では收支トシの程度兵器用機械として破壊を命ぜられたもの及び賠償指定の機械合計二百萬圓の損失補填は、不用となつた建物の處分によつて行ふ模様だ。

〔前途〕メリヤス編機の生産が漸く軌道にのりかけたし、織機も手がけ度い意向で準備中だし、前途は楽しみだ。戦災のないのが強味。

【事業】漁撈用網製造機 力織機、木工機 械、製粉機	大隈榮一 一三、六九〇 日本證券取引 一〇、〇〇〇 親愛商事 三、〇〇〇
【資本金】公稱 一〇、〇〇〇 拂込 五、〇〇〇	【重役】社長 大隈榮一 副 前川芳之助 取締役 村岡嘉六 渡邊 義郎 岡谷正男
【株数】(五〇) 100,000 株主(三三) 1,000名	【業績】純益 同率 配當
大隈興業 三六、〇三六 戦時金融金庫 三、一七〇	二一、三二一 四三〇 二一、八一 一四〇

櫻田機械工業

〔設立〕大正九年六月
〔決算期〕四月 十月

(本社)東京都中央区銀座(電京橋〇七〇一)

〔展開〕主力の砂町工場は戦災を受けたが戦前規模の半ばを復舊、事業はクレーン、製罐鐵骨及橋梁に轉換した。なお新しく農地開發用水門、製材事業等に進出を企圖す。賠償はなく資材は安い手持で賄うから収益もよい。

〔今後〕特損九百五十萬圓は流動資産の評価益で裕に補填出来る。子會社鬼怒川興業も好調であり、特經解除後は復配が實現しよう。

【事業】鐵工業	山本義治 二、〇〇〇 櫻田 櫻田
【資本金】公稱 五、〇〇〇 拂込 五、〇〇〇	【重役】社長 櫻田 常務 櫻田 藤本 太郎 取締役 尾藤 信 今井 三 宮城 健 富永 福司 野村 秀三 郎 雄 森 岡 秀三 郎
【株数】(五〇) 100,000 株主(三三) 1,000名	【業績】純益 同率 配當
櫻田工業 八、二〇五 山小證券 六、一七〇 櫻田工業 四、〇〇〇	二一、八一 三〇七

品川精機

〔設立〕昭和十一年十二月
〔決算期〕三月 九月

(本社)東京都品川区東品川(電大崎四〇一四)
(製造所)金澤市入江町ノ六

〔補填容易〕當社は戦災が無く、補償損失は軍需補償五百萬圓に止まる。諸積立及繰越利益百萬圓を控除すれば特別損失は四百萬圓だ。これは棚卸資産四百萬圓を二億に見積れば補填可能なわけで、なお相當の含みを残せる。

〔今後〕現在品川工場に於て印刷機械並自動車部品、金澤工場が魚網機械、木工機械の製作だが、受註は多量にあり事業は好調だ。

【事業】諸機械	大崎精機 六、二〇〇 【重役】社長 砂長谷哲 夫 専務 池貝正一 常務 島崎 隆 監査 山田 徳雄 池貝 三雄
【資本金】公稱 六、〇〇〇 拂込 四、九〇〇	【株数】(五〇) 100,000 株主(三三) 1,000名
新(三〇) 三〇,〇〇〇 株主(二八) 二八七名	【業績】純益 同率 配當
松山仁三郎 一〇、〇〇〇 閉鎖機關 九、三〇〇 池貝杉二 八、二〇〇 砂長谷哲夫 七、四三〇	二一、五七一 一三三 二一、八 一三〇 一・六〇

三菱重工工業

〔設立〕大正六年十月
〔決算期〕六月 十二月

(本社)東京都千代田區麹町九ノ内
(電九ノ内 一〇四)

〔整理〕特別損失は約二十五億。所詮資本金を九割切つて借入金に喰込まざるを得ない。

〔業況〕財閥解體で數社に分離する。地域別か事業別か未定だが、少くとも五社位にはなる。賠償から免れた長崎、廣島造船所、三原茨城工場は活況を呈している。新會社に分離すればそれぞれ独自の再建計畫を立て、再發足するから、分離後はさまで悲觀を要せぬ。

【事業】造船造機	戦時金融 一、〇九四、三三〇 明治生命 一、〇〇四、二七五
【資本金】公稱 一、〇〇〇、〇〇〇 拂込 七五〇、〇〇七	【重役】社長 岡野保次 取締役 稻生 常務 中村 恒久 監査 庄 田 泰藏
【株数】(五〇) 100,000,000 株主(三三) 1,000,000名	【業績】純益 同率 配當
新(三三) 三三、〇〇〇、〇〇〇 株主(二六) 二六、〇〇〇、〇〇〇名	二一、六 二一、六
持株會社 二、二六三、七六三 三菱本社 一、二六三、一八三 日本郵船 一、三〇六、六三三	二一、六 二一、六

川崎重工業

【設立】明治二十九年十月
【決算期】五月十一日

【本社】神戸市生田區明石町(電元町五五〇一五)
【支社】東京都中央区京橋實町(電京橋六六〇四)
【九割減資か】十億圓を上廻る打切損失に對し
積立金は五千萬圓にも満たぬ。流動資産は二億
二千萬圓弱だが、少々の評價替では補填不可能
だ。思い切つた外科的措置が要請される。
【第二會社】整理計畫は現在の主軸たる造船、
鐵鋼の二本分立の建前で第二會社を設立する方
針の様子だ。子會社川崎車輛、川崎汽船も夫々
獨立するが、問題の川崎産業(航機)は獨立困難。

【事業】造船、製鐵
【資本金】公稱 六〇〇,〇〇〇
拂込 〇〇〇,〇〇〇
【株數】
舊(五〇〇) 〇,〇〇〇,〇〇〇
新(二五〇) 〇,〇〇〇,〇〇〇
【株主】三五五 〇,〇〇〇,〇〇〇名
戰金閉鎖機關 八三〇,〇〇〇
山下汽船 六六〇,〇〇〇
大阪商船 六五〇,〇〇〇

日證閉鎖機關 三三三,一八六
帝國銀行 三三〇,七二六
【重役】取締役 西山彌太郎
部長 神馬新七郎
田久 手塚敏雄
田義樹 監査 坂田
幹太
【業績】純益 同率 配當
二・五二一五〇,九二六
二・五二一五〇,九二六
二・八一 七,七七七

石川島重工業

【設立】明治二十二年一月
【決算期】五月十一日

【本社】東京都中央区佃島(電京橋三六一一九)
【工場】江東區深川豊明州町第二工場
【パーシ】財界追放で笠原社長、中山、林兩常
務がやめる。巨頭主義で來ていたからその影響
は大きい。
【堅】業界一方の雄として、實力を大いに
買われている。殊に本社工場における化學機械
クレーンは活況を呈し、豊富な手持資材と相俟
つて將來とも有望。深川ドックは賠償指定。半
額減資か。

【事業】船舶造修、炭鐵
機械、肥料機械
機械、運搬機、起重
機、水門、諸機械
【資本金】公稱 一〇〇,〇〇〇
拂込 七〇,〇〇〇
【株數】舊(五〇〇) 九六〇,〇〇〇
新(二五〇) 一,〇〇〇,〇〇〇
【株主】三二八 三,二八八名
戰時金融 三〇九,七四〇

石川島自強會 八四,〇〇六
大谷米太郎 七六,八九〇
帝國生命 六三,〇〇〇
東芝 六〇,一八〇
【重役】社長 笠原逸二
常務 中山正則
常務 下島林
大之 取締役 下島勝
大宮 宮島利雄
【業績】純益 同率 配當
二・八一 二,九二三

日立造船

【設立】昭和九年五月
【決算期】三月九日

【本社】大阪浪速區日本橋三ノ四五松坂屋五階
【出張所】東京都千代田區神田錦倉町二
【半額減資】方針を一轉、拂込資本金額の半額
程度に減資する意向だ。先行不況時に備へての
賢明な措置と云えよう。
【業況】打切決算時には二千八十萬圓餘の益
金を計上している。造船其他機器製造が活潑化
しているからだ。次期決算にもこの活況を續け
よう。因みに近く當社は大阪鐵工所の舊社名に
歸する筈。

【事業】造船修繕、陸上
諸機械
【資本金】公稱 一三二,八〇〇
拂込 九二,三五〇
【株數】
舊(五〇〇) 一,二八八,〇〇〇
新(二五〇) 一,二八八,〇〇〇
【株主】二二四 四名
日立製作所 三,四三五,八九〇

【重役】社長 出田孝行
常務 西牧忠吉
原與三郎 取締役 山松
中英三 増田俊
妻藤一 信藤孝三
監査 山藤直藏
【業績】純益 同率 配當
三〇,九一七,二三四
二一・五二一五〇,九二六
二一・八一 二,〇〇〇,八二四 六・五〇

川南工業

【設立】昭和十一年九月
【決算期】四月十日

【本社】大阪市北宗是町(電土佐堀三三三二一四)
【支社】長崎市梅崎町四(電 四三〇〇〇)
【制限會社】二十一年六月に制限會社の適用を
受けた。特別損失は在外資産を含めて五千九百
五十萬圓に上る。この補填には手持資材の評価
訂正と手持船値上り益で一掃し得る事情にある
から減資はしない。
【多角經營】造船業以下七部門を持つ當社は最
近漁業に進出、この部門の活躍と前記手持船の
値土りとで、業績は逐次向上しよう。

【事業】造船、水産サル
ペーシ、炭礦等
【資本金】拂込 一〇〇,〇〇〇
【株數】(五〇〇) 一,〇〇〇,〇〇〇
【株主】二二五 七四三名
川南工業共榮會 八五,六二〇
川南豊作 七三,三三三
長崎汽船 四三,九〇〇
日本證券 四二,七五〇

【重役】社長 安田保善 三九,八〇〇
取締役 上野外次郎
吉田種由 丸龜秀雄
西雄勇吉 原岡善大
川南外爾 緒方爲五
郎 松島精
【業績】純益 同率 配當
二一・五二一五〇,九二六
二一・八一 二,〇〇〇,八二四 一

浦賀船渠

【設立】明治三十年六月
【決算期】六月 十二月
【本社】東京都中央区京橋(電京橋三〇六一九)
【工場】(横須賀市)浦賀造船所

【特異性】資産内容が良い點では随一、工場は古く時代のだが、傳統的に堅實經營を踏襲しているから、反動期にも堪えられる。ことに工員は全部地元出身者であり、當工場は横須賀市の平和復興と同調する宿命があるから、消極的強味になつてゐる。

【賠償好轉】浦賀主力工場賠償は川園工場とすりかえて賠償除外、好材料だ。

【事業】鋼、船、汽機汽機
其他諸機械の新
造及修理並土木
建築

【資本金】公稱 七五、〇〇〇
【株數】舊(五〇) 七五〇、〇〇〇
新(二五) 七五〇、〇〇〇
【株主】三三三 山下汽船 三三三、〇〇〇
閉鎖機關 九七、九〇〇
第百生命 四〇、五〇〇
帝國生命 四〇、〇〇〇
【重役】社長 甘泉豊郎
常務 多賀寛 取締
村田義雄 豊福清民
酒井清 座間英吉
【業績】純益 同率 配當
二一・八三、二三四 六・二九

函館船渠

【設立】明治二十九年六月
【決算期】六月 十二月
【本社】東京都臺東区上野元黒門町七
【出張所】大阪市西區土佐堀一ノ二

【減資に及ばず】特別損失三千二百萬圓は、前期繰越益金、諸積立金、舊勘定よりの果實、處分益の合計七百十萬圓に資産の評價益二千四百九十萬圓を合はせると恰度三千二百萬圓となる減資する必要はないわけだ。

【連絡船の修理】賣上の六割が連絡船の修理三割が新造船、一割が陸上機器で修理が當社の生命だ。連絡船増加の曉は修理は更に繁忙せん。

【事業】船舶建造及修理
並陸上機械製

【資本金】公稱 六〇、〇〇〇
【株數】舊(五〇) 六〇〇、〇〇〇
新(一〇) 六〇〇、〇〇〇
【株主】三一〇 閉鎖機關 三一〇、〇〇〇
大建産業 一三三、四八〇
加賀正太郎 一三、〇〇〇
富國生命 三、二〇〇
栗林近海 三、二〇〇
【重役】社長 富永能雄
常務 伊藤謙三 取締
足立一良 栗林徳一
【業績】純益 同率 配當
二一・六 三一〇・一三
二一・八 一五九・一三

三井造船

【設立】昭和十三年七月
【決算期】三月 九月
【本社】中央区日本橋室町(電日本橋三、一九〇)
【事務所】玉野製作所、大阪營業所

【三菱、長崎に次ぐ】造船所としては三菱長崎に次ぐ大規模工場で、工員七千人、幸いに賠償を除外されてをり、玉野市と當社との關係は浦賀船渠と横須賀市との關係に似ている。

【第四次造船中止】當社の如き新造船中心の會社には痛い。今後は貨物船に轉向して行く模様だ。拂込資本程度の特損はあるが、相當の減資不可避。月賣上三千五百萬圓に及ぶ。

【事業】船舶、船陸用汽
機汽機、車輛、其他

【資本金】公稱 六〇、〇〇〇
【株數】舊(五〇) 六〇〇、〇〇〇
新(二五) 六〇〇、〇〇〇
【株主】三三三 三井高公 四〇〇、〇〇〇
三井高公 四〇〇、〇〇〇
三井本社 二九七、〇〇〇
北海道炭礦汽船 五〇、〇〇〇
【重役】社長 加藤五一
專務 田中繁松
務 大野敏雄 大前
玉男 取締 宮崎定一
【業績】純益 同率 配當
二一・八三、八三三 二・三九

藤永田造船所

【設立】大正十二年四月
【決算期】五月 六月
【本社】大阪市住吉區榮谷町四四
(電住吉三六九一八)

【特別損失】特別損失は社内留保を引當て、もなお且つ一億圓の多額に上る。流動資産の評價益を三千萬圓として七千萬圓の残だ。九割減資を斷行、外部負債五割切捨は不可避だ。

【今後】右の方針で不良資産を一掃再出發を期しているが、今後の問題は、最近受注殺倒の漁船陸上機器類の材料手當だ。なお第二會社は設立しない様子だ。

【事業】造船、修理化工
用機器汽機、汽
機、車輛、橋梁

【資本金】公稱 四八、〇〇〇
【株數】舊(五〇) 四八〇、〇〇〇
新(一〇) 四八〇、〇〇〇
【株主】三一〇 倉敷紡績 三一六、二〇〇
帝國銀行 三三六、二〇〇
蓬萊殖産 二一、三三〇
永田常次郎 一九、二〇〇
【重役】社長 梅村榮
專務 佐々木平吉
取締 津村均 監査
鹿兒島弘通
【業績】純益 同率 配當
三〇・二二、八〇三
三〇・二二、八〇三
三二・五二、六六九
三二・八二、〇七七

播磨造船所

【設立】昭和四年十一月
【決算期】六月 十二月

（本社）兵庫縣相生市相生（電相生二四一六）
（支社）神戸市生田區西町三六興銀ビル四階

【強味】神戸製鋼の直系子會社である當社は補器部品の手當には可成り恵まれてゐる。建造船は戦時續行船、最近流行の漁船であるが、注目に値するのは吳造船所だ。空襲により海没した軍艦の引上げ、それに附帯する解體作業等繁忙を極めてゐる。二十一年八月期決算に割近い利益率を計上したのも主として當造船所の収益によるものだ。

【事業】造船及修理
【資本金】公稱 六〇〇,〇〇〇
拂込 三三,〇〇〇
【株數】舊(五〇) 六〇〇,〇〇〇
新(二・五) 六〇〇,〇〇〇
【株主】三一八 一名
神戸製鋼 一〇〇,〇〇〇
【重役】社長 横尾龍
専務 神保敏男 常務 江村仲兒 六岡

周三 取締役 守谷七
之進 春日 彦立
野一 監査 左近 允
基 森田 潔 北俊 一
【業績】純益 同率 配當
三一・三一九・九〇一
三一・六六三・〇六四
三一・八 四、三六〇・〇九八

日本造船

【設立】昭和十年八月
【決算期】三月 九月

（本社）東京都中央區銀座（電銀座五八〇三一九）
（事務所）大阪市北區永樂町八

【五割減資】特別損失は約二千五百萬圓ほどある。諸積立金、資産の評価益その他で埋めてもまだ一千二十萬圓不足する。五割減資は避けられぬところだ。
【問題】賣上の四〇%を占めるキャブ、ボデーの採算割れが赤字の原因で、現公債一臺につき七千五百圓を一萬二千圓え引上改訂を申請中だ。改訂になれば收支はどうやらつくなう。

【事業】造船、製材、合板製造、木工品製造、自動車々具製造、木工家
【資本金】公稱 三〇〇,〇〇〇
拂込 二〇〇,〇〇〇
【株數】(三三) 六〇〇,〇〇〇
【株主】三一三 名
日産農林工業 二五九、九〇〇

滿洲投資證券 二一九、四〇〇
日産重工業 六〇,〇〇〇
千葉四郎 六〇,〇〇〇
【重役】専務 岩瀬 金一 小川
常務 佐喜一 取崎 菊地
三 藤 悦 監査
吉川 小三郎
【業績】純益 同率 配當
三一・八二、六二八・三・六三

三井木船建造

【設立】昭和十八年三月
【決算期】三月 九月

（本社）中央區日本橋室町二ノ一（電日本橋三三三）
（支社）大阪市北區中之島三ノ五ノ二

【業績】立直り割合に早やく昨年下期には百五十五萬圓の利益をあげた。其後各事業特に漁船の新造、修理には見るべきものあり一ヶ月の賣上は五百萬圓に達しており、本年三月までは前期と同程度の黒字と豫想されている。
【今後の見通】資材面には問題なしとしないが熟練船大工の點では比較的めぐまれている。で今後の業況はまづ順調と見られよう。

【事業】船舶の建造並修理
【資本金】拂込 一〇〇,〇〇〇
【株數】(五〇) 二〇〇,〇〇〇
【株主】三一五 五名
持株會社 一九五、〇〇〇
三井造船 一、〇〇〇
米原章三 一、〇〇〇

【重役】代取 中西次郎
取締役 筒井金三郎
伊能康之助 財津武
村田昌治 中島捨松
監査 扇昌夫
【業績】純益 同率 配當
三一・八一、五三三・三・七三

松下造船所

【設立】昭和十八年四月
【決算期】三月 九月

（本社）堺市筑港南町六（電堺四三二一四）
（營業所）大阪市東區上本町二〇（電東四四二）

【方針轉換】大阪市内商店街建設に轉換の緒を見出したのも東の間、府建築方針の變更で再び木船建造に方針を立直した。大型漁船の受注も旺盛だが、材木不足で設備稼働率は著しく低下半期二百萬圓前後の欠損が見込まれる。
【特別損失】約七百萬圓位の特別損失を抱え相嘗苦しい様子だし、手持資材も底をついているから、此處らで半額程度の減資の要があらう。

【事業】木造船、建築材
【資本金】拂込 一〇〇,〇〇〇
【株數】(五〇) 二〇〇,〇〇〇
【株主】三一三 名
松下電器産業 松下さ幸之助

【重役】社長 福井隆義
常務 中島武雄 取
締 中瀬 淺男 中川
好郎 春海 隆男 中川
查 佐伯 廣 平野 速
男
【業績】純益 同率 配當

名村造船所

【設立】昭和六年七月
【決算期】三月 九月

(本社) 大阪市住吉区北加賀屋町三丁目
(支社) 東京都中央区京橋一ノ三(電京橋四八四)

【特種除外】二十一年三月期は赤字決算だったが、其の後之を一掃して黒字に轉じ、同年十一月には特種會社より除外され此の三月期決算には早くも五分配當を行つた。同業が軒並に赤字計上の折柄異數と云つてよい。

【見直し】可成り豊富な手持在庫、仕掛品勘定と修理部門の活動が目立つが、環境の激變を豫想すれば行き過ぎた樂觀は禁物だ。

【事業】鋼船製造修理	【資本金】公稱 八、〇〇〇	【重役】社長 名村源之助	【株主】新(二五〇) 八〇,〇〇〇
	【株数】(五〇〇) 八〇,〇〇〇	専務 名村義重	【株主】三三三 一九三名
		事務 平野芳太郎	【株主】三三三 一九三名
		川八百治郎	【業績】純益 同率 配當
		名村源之助	二二・九
		名村治一郎	二二・九
		野村義重	二二・九
		名村義重	二二・九

名古屋造船所

【設立】昭和十六年六月
【決算期】六月 十二月

(本社) 名古屋市港區昭和町十三
(電瑞穂一、二三三)

【業況】新造船は漁船の外に客船も着工中、修理船も繁忙。最近電車の製造を始め既に一部を納入したが、同部門も時節柄擴充を必要とする。併し資材高、經費膨脹で採算は不味だ。尙副業に内海海運を開始した。

【整理】特別損失は九百萬圓餘であるが、積立金は勿論資本金の九割を打切つても尙足らず債權者の興銀に相當の負擔を掛ける筈だ。

【事業】造船事業	【資本金】拂込済 四、〇〇〇	【重役】社長 飯田嘉六	【株主】(五〇〇) 八〇,〇〇〇
	【株数】(五〇〇) 八〇,〇〇〇	常務 青井武雄	【株主】(二八) 一四三名
		事務 木村新三郎	【株主】(二八) 一四三名
		持株會社 山本米治郎	【業績】純益 同率 配當
		大同等鋼 重光族	二二・六
		甘泉豊郎	二二・六
		下出義雄	二二・六
			二二・六

四國船渠

【設立】昭和十年十一月
【決算期】三月 九月

(本社) 高松市朝日町四九七(電高松三三七)

【整理轉換不要】戦災の影響は皆無だし、事業轉換の必要もないのが強み。小規模だが經營堅實で、償却も行届き資産の含みも多い。勞資關係も幹部の温情主義で他社に比し頗る圓滑だ。

【業績】本年上期は昨年同期の二倍に當る八百萬圓の總收入を上げたが、純益率は原資材割高の爲逆に約一割七分七厘低下した。今期の建造豫定船は六隻で修理部門も活況を呈している

【事業】造船業	【資本金】拂込済 三、〇〇〇	【重役】社長 多田光之助	【株主】(三〇〇) 六〇,〇〇〇
	【株数】(三〇〇) 六〇,〇〇〇	常務 佐藤熊吉	【株主】(三〇〇) 二七名
		多田英一郎	【業績】純益 同率 配當
		多田保一郎	二二・三
		多田英一郎	二二・三
		佐藤熊吉	二二・三
		出口巳之助	二二・三
			二二・三

南國特殊造船

【設立】昭和十二年二月
【決算期】九月 三月

(本社) 東京都中央区日本橋通一ノ九
(電日本橋三三七)

【事業概況】王子工場は百%戦災被害をうけたが、どうやら回復最近消防指揮艇、水上警察用舟艇夫々一ぱい竣工して漸く軌道にのつており又第八軍港灣内に二十六ぱいの舟艇を配しての米軍の海上輸送も繁忙を呈している。

【業績】昨年六月決算は六萬八千圓の純益六分三厘の利益率で五分配當をつけた。業況進捗の當期の黒字は之を上廻ると見込まれている。

【事業】造船(木造船)米軍海上輸送	【資本金】拂込済 三、〇〇〇	【重役】社長 藤井二三	【株主】(五〇〇) 八〇,〇〇〇
	【株数】(五〇〇) 八〇,〇〇〇	常務 矢竹芳造	【株主】(二六) 一三〇名
		藤井二三	【業績】純益 同率 配當
		矢竹芳造	二二・六
		安田火災海上	二二・六
		高松彦四郎	二二・六
		小倉方司	二二・六
			二二・六

秋田木材

【設立】明治四十年三月
【決算期】十一月(年二回)

【本社】秋田縣能代市御指南町二三
【事務所】東京都中央区小網町(電茅場町四二五)

【増資】名古屋、東京兩製材工場の復舊、合板工場の修理、新規事業進出等により借入金は四千萬圓を超えるに至つた。既に兩製材工場も操業を開始したのでやがて借入金返済のため未拂込徴収に次いで倍額増資が實現しよう。

【業績】製材能力は素材年四十萬石に達し、合板、山林賣買の各部共成績を擧げている。資産内容も比較的良く、今後の業績は期待される

【事業】山林、製材、木材加工

【資本金】公稱 二五、〇〇〇
拂込 一八、一〇〇

【株數】舊(五〇) 二四、〇〇〇
新(三五) 二七六、〇〇〇

【株主】三三三
井師會 二、四三四名
閉鎖機關 二、四三三名
秋田銀行 二九、〇〇〇

【重役】社長 相澤治一
専務 白井兵庫

常務 相澤 東一郎
金崎盛徳 取部 一郎
川崎三郎 村田武治
河田與助 地主 慶吉
結城健太郎 泉太助
井坂健男

三井木材工業

【設立】昭和十九年三月
【決算期】三月 九月

【本社】東京都中央区日本橋室町二
【支店】札幌、大阪

【事業】北海道を事業の中心地として、木材販賣、製材、合板の各部門に分れ、一部家具類の生産を行っている。素材生産高は年間約四十萬石、製材能力は十四工場年間約三十萬石を擁し、業界では有力な存在である。

【制限會社】しかし、當社は財閥制限會社であるため、事業活動には種々の制限があり、當面積極的活動は行はれない。

【事業】山林業、製材、木材加工並に販賣

【資本金】拂込済三〇、〇〇〇
株數(五〇) 一〇〇、〇〇〇

【株主】三七七
【重役】社長 島谷部信
専務 宮島正義
常務 取部 七
中島三郎

常監 渡邊鐵次 井
上高三

太平木材

【設立】昭和二十一年十一月
【決算期】三月 九月

【本社】東京都臺東區上野廣小路一〇一
【支店】札幌、秋田、横濱、長野、大阪、名古屋

【資金豊富】農林中金より借入れた六千五百萬圓は舊日本の資産買収費に充當したが、新たにシンジケート團による二億六千萬圓を限度とする借入契約が成立した。木材買付資金等として大きな力を發揮しよう。

【業績】木材取扱量は年間四百萬石を目標とし、製材能力も年間三十萬石を擁している。今後の業績には期待されよう。

【事業】山林賣買、木材生産販賣、製材

【資本金】拂込済三〇、〇〇〇
株數(五〇) 六〇〇、〇〇〇

【株主】三三三
日本建設工業 二〇、〇〇〇
國有鐵道共済組合 一〇、〇〇〇
逓信共済組合 一〇、〇〇〇

【重役】社長 村上富士
専務 村中 金
常務 神戶 豪太郎
取部 萩野 久一郎

【業績】純益 同率 配當
三三・三二・九九・二・三〇・〇・五〇

大和木材

【設立】昭和十八年十月
【決算期】三月 九月

【本社】東京都中央区日本橋吳服橋二ノ五
【防府工場】山口縣防府市幸禮

【防府工場】當社の根幹をなす防府工場は建坪二千坪の優秀な工場である。二百、百五十馬力のエンジン各一、各種帶鋸十臺、ロータリーレス二臺で一日の製材能力七百石、機械の評価は低位であり、立地も非常によい。

【三月決算】立木、原木約一年分は確保してをり、今後好調見込。三月初決算は豫定通り、餘裕裡に五分配をつけた。

【事業】製材、製箱洋椽

【資本金】拂込済一〇、〇〇〇
株數(五〇) 二〇〇、〇〇〇

【株主】三三三
藤井達二 一七二名
川島正次郎 一六、五〇〇
猪俣敬次郎 一三、〇〇〇
花崎武雄 一〇、七三〇
大和興業 七、四〇〇

【重役】社長 藤井達二
専務 猪俣敬次郎
常務 由木理一
締吉 田尾清成
健吉 伊藤秋太郎
次郎 藤田正

【業績】純益 同率 配當
三三・三一・〇三〇・二・一〇・〇・五

日本建材工業

【設立】昭和九年七月
【決算期】五月十一日
（本社）東京都中央区日本橋堀留町二ノ八
（電）茅場町一四九・四〇三・四〇三六

【機械製造】製煉を工場生産化した特異な会社である。製品が製品だけに和戦両機が利き、その点だけでも恵まれてる。このほかに製煉機、木工品、テックス、マグネシアセメント、花籃をつくつてをり、何れも好調裡にある。
【増資と今後】今般の二倍増資は大宮工場（八萬坪、建四千坪）の買収、設備補充にあり、業績良好で、將來は増配も考慮中。

【事業】製煉床機、建具、家具、木工品、製造販賣

【資本金】拂込済 100,000
【株数】(500) 100,000
【株主】(50) 1,800名

【重役】社長 河本文一 八、五五〇
副社長 武田要輔
取締役 山下 武田要輔
行衛 吉瀬文雄 加藤
藤久幸 伊藤正作 武
桑原 右衛門 村岡
吾一 武田良一 監
山本 實 勇 櫻 卯一
【業績】純益 同率 配當
二・二一八 一・六〇〇

新望産業

【設立】昭和九年四月
【決算期】三月九日
（本社）東京都世田谷区松原町（電）松澤二六六五
（支社）東京都中央区日本橋吳服橋建物ビル

【第二會社】補償賠償關係資産はないから累期赤字と在外資産計二百六十五萬圓が特別損失だ減資で一應かたづくわけだが、本業の鑛山業は廢業同然だし、新事業も漸く緒についたばかりだから、資本負擔を軽くするため第二會社で再建に向う方針だ。
【原料の強味】醬油の原料鹽は自家製造で間に合うし、原料も五割は自給が可能だ。

【事業】鑛業、林業、木工加工業、食品加工

【資本金】拂込済 7,000
【株数】(500) 1,400,000
【株主】(50) 1,400名

【重役】社長 緒方謙吉 二、〇〇〇
副社長 安藤博 取
常務 森田 伊藤 介 關
孝次 安田 彦太郎
監査 坂井 章一 櫻
井金 吾
【業績】純益 同率 配當
二・二一八 一・二五二

日本ゴム

【設立】大正七年六月
【決算期】十二月
（本社）福岡縣久留米市洗町一（電）久留米四四二

【現況】當社は地下足袋、ゴム靴製造の純平和事業で戦災も殆んどなく、賠償にも指定されてない。が電力石炭事情の悪化のため操業率は僅に四割で毎期赤字を出している。當面最大の隘路は電力制限だ。更に人件費、原料費等の値上りのため急速な好轉は望めそうもないのでこゝ暫くは苦難の時期がつゞこう。軍需補償千四百五十萬圓、外地資産六百萬圓も相當の負擔

【事業】地下足袋、運動靴

【資本金】拂込済 20,000
【株数】(500) 4,000
【株主】(50) 2,000名

【重役】社長 石橋徳次
副社長 石橋正二
取締役 波俊一郎 北島輝一 板
常務 野勤助 富安武雄
城後圭一 同率 配當
【業績】純益 同率 配當
二・二一八 一・六〇〇
決算延期中

昭和護謨

【設立】昭和十二年六月
【決算期】三月九日
（本社）東京都中央区京橋二（電）京橋四二二一七
（出張所）大阪市北区堂島濱通一（電）北五五五三

【事業経望】自轉車タイヤ、チューブは輸出品としての生産も多く、その他工業用、醫療用、厚生用、履物類等の生産高は合計月産五百萬圓内外で、事業の將來は期待される。寒川工場の農畜産加工を中心とする多角經營計畫も當社今後の興味であろう。
【在外資産】南方ゴム園の特損は六百五十萬圓だが既に四百萬圓を落し補填は問題あるまい。

【事業】護謨製品

【資本金】公稱 10,000
【株数】(500) 1,000
【株主】(50) 1,000名

【重役】社長 野村生命 五、〇〇〇
副社長 野村 茂 作 吉 取
常務 藤田 留科 太 小
藤良 井上 雅 夫
坂形 二 森重 夫
【業績】純益 同率 配當
二・二一八 一・二五二

中央ゴム工業

【設立】三月 九月
【決算期】三月 九月

(本社)神戸市葺合區筒井町一ノ二〇

【復 舊】震災により工場の殆んど全部が焼失し去つたが、現在では既にその六割方が復舊。昔日の域には勿論達しないが、依然として斯業の重點的存在である。稼働率の向上と共に業績も上伸し、八月決算には三百三十萬圓の利益金を計上、二百萬圓近い繰越損を一掃した。
【今 後】ゴム製品は需要多く見返物資としても最適だ、問題は生ゴム、副資材の確保如何だ。

【事業】各種ゴム製品	【重役】社長 中松眞卿
【資本金】拂込済 八、〇〇〇	専務 高山進一
【株数】(株) 一六〇、〇〇〇	取締役 高木茂 丹澤三
【株主】(株主) 一六〇名	取締役 堀見勝 木野清
大倉産業 (株数不詳)	取締役 利三郎 藤田
川崎重工業	取締役 本惣治 豊谷
東洋紡績	取締役 正輔 藤田
チーゼル自動車	【業績】純益 同率 配當
日産自動車	二一・八二、二五〇〇 二・八

堀抜帽子

【設立】昭和二年六月
【決算期】二月(年一回)

(本社)伊丹市伊丹二三六 (電伊丹五五五)
(支店)神戸市榮町通り

【増 資】當社は三百五十萬圓から八百五十萬圓に増資したが、原毛自給の計畫が進むにつれ資金の需要も増大するので、行々は三千萬圓増資を目論んでいる。
【業 績】終戦後の成績は素晴しく良好である今年二月期の成績は六百十九萬圓の利益をあげ五分配當を行つた。原毛自給が完成すれば業態は一段と充實するだろう。

【事業】帽子製造販賣	長森力太郎 井關勇
【資本金】拂込済 八、〇〇〇	取締役 治 北谷悦次 乾鐵
【株数】(株) 一七〇、〇〇〇	取締役 應 上野保 廣山長生
【株主】(株主) 一七〇名	取締役 堀拔義太郎 廣山長生
堀拔義太郎	【業績】純益 同率 配當
堀拔義太郎	二〇・五 一四〇 〇・七
堀拔義太郎	二一・三 一七〇 〇・五
堀拔義太郎	二一・八 一四〇 〇・三
堀拔義太郎	二一・二 一四〇 〇・五
堀拔義太郎	二一・八 一四〇 〇・五
堀拔義太郎	二一・二 一四〇 〇・五

福助足袋

【設立】大正八年十月
【決算期】二月(年一回)

(本社)堺市南安井町二ノ五〇(電堺三五五)
(支店)東京都中央区日本橋小傳馬町二ノ三

【彈力性】職保特殊預金約一千七百萬圓、在外資産約三百萬圓、軍需補償約三百萬圓、戦時罹災勘定約六百萬圓、計約二千九百萬圓が整理すべき金額だが、職保特殊預金は落してあるから實際は一千二百萬圓程度の損失だ。積立金、利益金合計約二千萬圓で充分補填出来る。
【復興計畫】目下復興計畫を實施中。原料ゴムの逼迫もあるが、現状は大體順調、業績は良好。

【事業】地下足袋、運動靴	【重役】社長 辻本英一
【資本金】拂込済 五、〇〇〇	取締役 辻本幸治 辻本敬三
【株数】(株) 二五〇、〇〇〇	取締役 一 辻本昇 桑原貫
【株主】(株主) 二五〇名	取締役 一 辻本昇 桑原貫
福助會	【業績】純益 同率 配當
辻本豊三郎	二一・〇 一〇〇 〇・〇
辻本敬三	二一・〇 一〇〇 〇・〇
辻本幸治	二一・〇 一〇〇 〇・〇
辻本俊雄	二一・〇 一〇〇 〇・〇

日本皮革

【設立】明治四十年四月
【決算期】三月 九月

(本社)東京都足立區千住緑町一六

【補填容易】當社は震災の被害輕微で、補償損失は一千八百萬圓だが、諸積立金及び繰越金は一千四百萬圓に上り特損は四百萬圓だ。これは棚卸資産一千七百萬圓の評価益で裕々補填出来るから問題とならない。
【業 況】昨年八月十日決算で七十二萬圓の純益を計上し、石炭、電力、諸資材不足の陰路にも拘らず順調な成績を挙げている。

【事業】皮革	【重役】社長 伊藤勇二
【資本金】拂込済 五、〇〇〇	取締役 上守次 伊藤保人 井
【株数】(株) 一〇〇、〇〇〇	取締役 千十郎 西村直 伊藤
【株主】(株主) 一〇〇名	取締役 千十郎 西村直 伊藤
【業績】純益 同率 配當	二一・三 一〇〇 〇・五
	二一・三 一〇〇 〇・五
	二一・八 一〇〇 〇・五
	二一・八 一〇〇 〇・五

山陽皮革

〔設立〕明治四十四年十月
〔決算期〕三月 九月

〔再増資〕特別損失は九百萬圓程度だが、材料製品、仕掛品三百二十五萬圓の値上り益で略々補填の見透しがついた様子である。従つて未拂込徴収、減資等は行はない意向だ。
〔原料難〕當社のみに限らぬ隘路ながら、原皮加工の絶対不足は當社の先行きを暗いものにしてゐる。この點よりすれば、帳簿上のやりくりに終始せず抜本的な措置を講ずべきだ。

〔事業〕タンニン、クロム鞣革及加工
〔資本金〕公稱 四、〇〇〇
株数 舊(五〇) 四〇〇、〇〇〇
新(三・五) 四〇〇、〇〇〇
名
〔株主〕川西清司
川西清
澤田清兵衛

〔重役〕社長 坪田義應
常務 中川博通
取締役 小曾根貞松
田島之助 川西清司
澤田清兵衛 澤野定
丸山芳雄 瀧川武
〔業績〕純益 同率 配當 三・〇・七

大日本印刷

〔設立〕明治二十七年一月
〔決算期〕五月 十一月

〔再増資〕昨年十二月に倍額増資を行つた當社は、去る四月更に倍額増資を断行し資本金二千五百萬圓(拂込済)と斯界一の會社となつた。この増資は製本工場の建設費に充當されたが、これで作業の一貫體制が強化されたわけだ。
〔五月期〕去る五月期決算で利益金百六十五萬八千圓を挙げ、引續き五分配當を行つた。今後も繁忙を豫想され、依然好調を持続せん。

〔事業〕印刷、製本
〔資本金〕拂込済 三、〇〇〇
株数 舊(五〇) 一、五〇〇、〇〇〇
新(三・五) 一、五〇〇、〇〇〇
名
〔株主〕野村證券 五六、五〇六
實業教科書 一八、一九八
北島鐵衛 一六、五三三
中等學校教科書 一四、七七一
帝國工業 一〇、〇〇〇

〔重役〕社長 佐久間長
常務 吉郎 北島鐵衛
片山謙吉 増田義太郎
山取謙一 安達彦雄
山上謙一 小坂信雄
秋田茂 宮澤武雄
常監 宮澤武雄
〔業績〕純益 同率 配當 二・一・二

凸版印刷

〔設立〕明治三十三年一月
〔決算期〕十一月

〔減資せず〕特損勘定は表面四千七百萬圓だが實際は五、六百萬圓の償却ですむため今十一月決算で問題なく補填され減資の要はなく、積立金、棚卸資産を計上すれば莫大な餘裕だ。
〔業績好況〕九工場のうち四工場焼失したが漸次復舊、能力一段擴充され注文殺倒と共に業績は月毎に向上、かくて特經免除と共に復配は勿論、近い將來増資必至の筋合にある。

〔事業〕各種印刷
〔資本金〕公稱 三、五〇〇
株数 舊(五〇) 三〇〇、〇〇〇
新(三・五) 三〇〇、〇〇〇
名
〔株主〕三〇・一一 一、二六名

〔重役〕社長 井上源之
常務 三郎 久保文藏
山田三郎 佐野貞
作常務 與賀田辰雄
菅野健介 取締
足立正 松本新太
高木義賢 中井利正
〔業績〕純益 同率 配當 三〇・一一、三三一・二五〇・五〇
三二・八・一一、九八 一〇・〇〇

日本印刷工業

〔設立〕昭和二十二年五月
〔決算期〕三月 九月

〔異・彩〕大株主の顔觸れでも分るように、保險會社の印刷専門の會社だ。バックがあるだけに力強いわけだ。技術指導は大平印刷専務の保科氏、共同印刷社長大橋氏が當るのも強味であらう。
〔操業開始〕國領、小石川兩工場は六月から一部操業開始している。株價は賣出値を割つてゐるが、當面止むを得まい。

〔事業〕一般印刷
〔資本金〕拂込済 四、五〇〇
株数 舊(五〇) 九〇〇、〇〇〇
新(三・五) 三〇〇、〇〇〇
名
〔株主〕三三・五 六、八〇〇
日本生命 四、三〇〇
千代田生命 四、三〇〇
大和生命 四、三〇〇
第一生命 四、三〇〇
新日本生命 四、三〇〇

〔重役〕社長 筒井實廣
常務 山保科清春
芳雄 山田金雄 大橋
口正造 内村奉一 野
新吉 川崎金藏 太田
門成瀨 小林中
〔業績〕純益 同率 配當

日電興業

【設立】大正八年十二月
【決算期】三月 九月

【本社】大阪市北區宗是町(電土佐堀三六三・三三二)
【事務所】東京都港區芝新橋田町愛光ビル

【解體へ】三月十七日當社の持株は持株整理委員會へ移讓され、獨占禁止法に従つて解體することゝなつた。

【資本切捨】以前の子會社は、在外會社以外は色々轉換しつゝある。當社の持株の評價は消却が行きとゞいてゐるから、清算すれば、せいぜい小額の資本切捨ですみ、債權の切捨は不要の見込みだ。

【事業】持株會社
【資本金】公稱 一、二、一九
【株數】 拂込 八三、九〇九

【重役】社長 日本生命 二八、八二九
安田生命 三四、六九五
專務 久保田直敏
取締役 西田徳太郎
荒井榮次郎 同率 配當
【業績】純益 同率 配當

【株主】三三・三三 二七、六九九名
三〇・九五 三〇、〇九四
二一・三一 三〇、三二一
二一・八一 三二七

【戦時金融庫】六三、二六五
千代田生命 四一、〇一四

日綿實業

【設立】明治二十七年二月
【決算期】三月 九月

【本社】大阪市北區中ノ島二ノ一〇
(電土佐堀三八七・九)

【打切資産】昨年八月十日の決算面から見ると打切を要する在外資産は三千五百八十萬圓である。これに對し積立金、利益金の總計は約七百三十萬圓だから、特別損失は二千八百萬圓に上り資本金(三千萬圓)にたい込む譯だ。

【業況】併し事業そのものは、内地の六支店及三十二出張所を通ずる雜貨取扱、棉花・綿絲布、生絲、小麥の輸出入業務の代行で好況だ。

【事業】織維品雜貨取扱
【資本金】拂込 三〇、〇〇〇
【株數】 拂込 一〇七名

【重役】社長 湖崎喜八
取締役 亮木徳太
郎 取締 木村生三 黒川
秀三 田中茂光 岡
島美行 山本英雄
木下清次郎
【業績】純益 同率 配當

【株主】三三・三三 一〇一〇・〇五
二一・三一 三〇、三二一
二一・八一 三二七

【戦時金融庫】三、三三〇

江商

【設立】大正六年一月
【決算期】三月 九月

【本社】大阪市北區中之島二ノ二五(接収中)
【假營業所】大阪市南區心齋橋一ノ一一八

【特別損失】打切資産の總計は二千七百萬圓でこれに對し積立金、利益金の總計は千二百萬圓だから、差引約千五百萬圓が特別損失となる。商會社だから手持商品の値上りも大して望めず有價證券の値上りも餘り多くないから、結局千百萬圓位の資本切捨が不可避であらう。

【業績】事業は終戦後國內商業に重點をおきその上棉花綿布の取扱手數料も入るから安泰だ

【事業】雜貨、棉花綿布
【資本金】拂込 三、一五〇
【株數】 拂込 六三、〇〇〇
【株主】三三・三三 二二、〇〇〇名
二一・三一 二二、〇〇〇
二一・八一 二二、〇〇〇

【重役】社長 田附株式會社 三、五〇三
專務 三村直憲 駒村資正
取締役 三村直憲 駒村資正
島瀨傳 風呂川
小川清 風呂川
【業績】純益 同率 配當

【株主】三三・三三 二二、〇〇〇
二一・三一 二二、〇〇〇
二一・八一 二二、〇〇〇

【野瀨清嗣】一六、二四一
【阿部市太郎】一六、二四一

淺野物産

【設立】大正七年三月
【決算期】六月 十二月

【本社】東京都品川區東品川四ノ一(電大崎九〇)
【支社】東京都千代田區丸ノ内一ノ一〇五

【損失】軍需補償一千萬圓、在外資産七百五十萬圓、船舶喪失三百四十萬圓の合計二千二百萬圓の損失に對し、諸積立金は四百萬圓だから特別損失は一千七百萬圓となる。これは手持商品の評價益で十分埋まるから問題はない。

【再建を進めよ】貿易再開を間近かに當社經營陣は積極的でない。事業の前途は極めて有望なこの際早急に再建を進むべきだ。

【事業】一般輸出入貿易
【資本金】拂込 一〇、〇〇〇
【株數】 拂込 七五名
【株主】三三・三三 二二、〇〇〇
二一・三一 二二、〇〇〇
二一・八一 二二、〇〇〇

【重役】社長 淺野企業 八、五三三
專務 岩上淳一
常務 金田源次郎
吉光 金田政治 二宮元
新木村 取締 二宮元
鈴木 常監 木村
【業績】純益 同率 配當

【浅野同族】七三、九七一
【橋本夏雄】一五、〇〇〇
【共同興業】一三、六六五
【二宮新】九、六六五

愛知起業

【設立】昭和十八年二月
【決算期】三月 九月
【本社】名古屋市中東區東新町七ノ二(電東H00H)
【支社】東京都港區赤坂葵町三

【第二會社設立】當社はオート三輪(チャイアノト)漁船用及び農業用エンジンの生産に主力を注ぐことになった。第一期月産計畫としてオート三輪百臺、漁船用エンジン二十臺、農業用エンジン百五十臺を目標としている。このやうな事業内容のもとに第二會社を設立することに内定したが、使用總資本として大約三千萬圓を見込んでゐる。

【事業】印刷製本並青寫眞燒付業木工機械オート三輪車等機械製造
【資本金】拂込済三〇、〇〇〇
【株數】(五〇) 一、九五〇名
【株主】三・五 一、九五〇名
【役員】社長 神田純一
専務 五明得一郎
常務 小田邦美 取
小澤泰代
【業績】純益 同率 配當
【支店】東海銀行 一六、〇〇〇
松坂屋 二、八五〇
【支店】東京 二〇、〇〇〇
神戶 二〇、〇〇〇
大阪 二〇、〇〇〇
名古屋 二〇、〇〇〇
愛知航空證券 一六、二〇〇

阪急百貨店

【設立】昭和二十年三月
【決算期】三月 九月
【本社】大阪市北區角田町(電福島三〇三九)
【支店】天満店、神戸三宮店

【電鐵から分離獨立】本年一月獨占禁止法の上程に先んじて京阪神急行から分離獨立を決定、同四月一日から新會社として設立した。新會社株の三分の二は三月十日現在の電鐵株主に十株單位で割當てた。殘餘の三分の一は百貨店従業員及びその縁故關係に分配した。
【今後】從來の百貨店収益は建物賃借料として電鐵に支拂われる。賣上は最近多少鈍化した

【事業】百貨店業
【資本金】拂込済三〇、〇〇〇
【株數】(五〇) 六〇〇、〇〇〇
【株主】整理未済
【役員】社長 清水雅
専務 野田孝 取
常務 村上允吉
甲田正藏 島田武
平井日出男 鳥田武
中野清作 八馬
松岡潤吉 八馬

越

【設立】明治三十七年十二月
【決算期】二月 八月
【本社】東京都中央區日本橋室町一ノ七ノ四
【支店】新宿、銀座、大阪、神戸、高松、仙臺

【特選免險】當社の特別損失は、震災保險と在外資産を併せて二千四百萬圓、昨年八月と本年二月の利益金で補填した。
【業績】業績は好調、賣上高は大約半期四億圓であるが、丸公の引上げで尙ほ増加の勢ひだ賣場を擴充の方針で、日本橋本店も、近く四階の一部を賣場とする。賣場内容は非常に優秀、不況期に對する抵抗力も百貨店中一番大きい。

【事業】百貨店業
【資本金】公稱 三〇、〇〇〇
【株數】(五〇) 二一、〇〇〇
【株主】新(三〇) 三〇〇、〇〇〇
三越店員愛護會六、四七五
二幸 六二、三四〇
北澤國男 五九、八〇〇
北澤澄雄 二九、六八〇

白木屋

【設立】大正八年七月
【決算期】一月 七月
【本社】中央區日本橋通一ノ九
(電日本橋二三一一五七)

【合併問題】大丸が特經會社なのでその整備がすむまで合併は延期、合併は好材料で賣上も三越を凌駕し、業界第一となる。
【増資】一千五十萬圓から二千二百萬圓へ増資主として運轉資金に充當される。當社の業績は順調で半期一億五千萬圓の賣上は下らぬ。大丸と合併すれば當社にとつて好影響あり、先行き發展が期待される。

【事業】百貨店業
【資本金】拂込済三〇、〇〇〇
【株數】(五〇) 二、九三三名
【株主】三・一 二、九三三名
白木興業 一〇、〇〇〇
野村生命 九、九〇〇
大日本ビル 六、三三〇
日立生會 五、三〇〇
鏡山忠男 三、三〇〇

大

丸

〔設立〕大正九年四月
〔決算期〕二月 八月
〔本社〕大阪市南區心齋橋筋一丁目(電南二三)
〔支店〕京都、神戸

〔白木屋合併問題〕昨年十月白木屋と對等合併をすべく議立は凡て調つていたのでが當社が特經會社となつたため頓座を來した。特經の框が解かれたら早急に實行する計畫ゆえ、順調にゆけば本年中には白木大丸が實現しよう。

〔現況〕大阪本店は全國百貨店中の店別賣上高では一、二位というところ。賣場は五月から大擴張し、經營陣も最近非常に若返つた。

〔事業〕百貨店業
〔資本金〕拂込済一五、〇〇〇
〔株數〕(五〇) 三〇〇、〇〇〇
〔株主〕(三〇) 一、六三〇名
下村正太郎 四八、三三〇
大丸信學會 四〇、四二〇
下村トミ 一〇、七三〇
戰時金融金庫 六、七九〇

〔重役〕會長 森八郎助
社長 里見純吉
社務 東條久壽馬
村重輝 取締 下村吉
昇之助 外六名 常
監 小野雄作 配當
〔業績〕純益 同率 〇・七
二〇・八一 〇・八六 一・四四 〇・七
二二・三 三三〇・三
二二・八

高島屋

〔設立〕大正八年八月
〔決算期〕一月 七月

〔本店〕大阪市南區難波新地六番十(電南二三五)
〔營業所〕大阪本店、京都支店、東京支店

〔未拂込徴収〕去る三月未拂込百四十萬圓を徴収した。業況は依然活潑だ。傍系に住江織物、丸高食品、高島屋工作所がある。

〔増資認可〕去る五月二十二日付で一千六百萬圓の増資が内認可された。實現の勢は資本金は倍餘の三千萬圓となる。特經會社で増資を認可されたのは當社が嚆矢だ。それだけ内容は堅調だといえる。

〔事業〕百貨店
〔資本金〕拂込済一四、〇〇〇
〔株數〕(五〇) 二八〇、〇〇〇
〔株主〕(三〇) 二、六三〇名
飯田直次郎 一、一七三〇
共愛會 九、九七〇
日本生命 五、一〇〇〇
飯田俊季 四、八八〇

〔重役〕社長 飯田直次
常務 西岡辰造
勝堅一 飯田新三郎
取締 飯田新三郎
外四名 監査 三名
〔業績〕純益 同率 配當
三〇・一 九八三 一・五六
三〇・一 一、三〇 一・八三
三二・七 一、一五〇 一・八三
二二・八 八三 二・三

松坂屋

〔設立〕明治四十三年二月
〔決算期〕二月 八月
〔本社〕名古屋市中區南大津通二ノ九
(電東二一〇)

〔復興〕罹災した名古屋、銀座、靜岡三店共に各三階まで賣場復興、商品出廻り増加、物價昂騰に伴い、二期期の賣上高は三億圓近くに上つたが、八ヶ月も引續いて好調のようだ。

〔増資〕六月一日伊藤産業を合併、更に二千六百萬圓増資し、資本金は五千五百萬圓に増大諸経費も膨脹したが、前記の通り好調故、五分配當に相當の餘裕を生じた筈。

〔事業〕百貨店
〔資本金〕拂込済二〇、〇〇〇
〔株數〕(五〇) 四〇〇、〇〇〇
〔株主〕(三〇) 一、三三〇名
伊藤次郎左衛門 八〇、〇〇〇
伊藤三郎 一五、〇〇〇
伊藤三郎 一五、〇〇〇
朝日興業 一三、九〇〇
泉善會 一三、八〇〇

〔重役〕社長 伊藤次郎
左衛門 專務 金子
常務 松岡正
堤三 塚本峰吉
取締 交野政通 小林
八百吉 佐々部 晚徳
〔業績〕純益 同率 配當
二二・二 七九四 〇・九八 〇・五
二二・八 九八五 一・一四 〇・五

松屋吳服店

〔設立〕大正八年三月
〔決算期〕二月 八月
〔本社〕東京都中央区銀座三ノ一ノ五
(電京橋三二二・三二二)

〔復舊進捗〕昨年十一月に銀座新館、横濱支店が新設開店し、淺草店の一階も十二月半ばに復舊完了した。さらに銀座新館の擴張、淺草店の三、四階の復舊も進行中である。

〔再興〕新設、復舊に伴い賣上高も累増して著實な足取りを辿つてゐる。相次ぐ接收で再興を危ぶまれた當社もどうやら最悪期を切り抜けたわけで、今後も順調な成績を示そう。

〔事業〕百貨店
〔資本金〕拂込済一四、〇〇〇
〔株數〕(五〇) 一〇四、九〇〇
〔株主〕(三〇) 九六一名
古屋合名會社 一九、六一〇
古屋徳兵衛 一〇、六〇〇
古屋惣太郎 四、四八〇
徳榮會 三、三三〇
北澤國男 四、二〇〇

〔重役〕社長 古屋徳兵
常務 古屋惣太
衛 齋藤 雄
吉川 彌助 太田 清蔵
監査 細入 富重 大
濱喜一郎 古屋富一
〔業績〕純益 同率 配當
二二・八 一、一三 一
二二・八 一、一三 一

丸

物

【設立】昭和九年九月
【決算期】二月 八月

【本社】京都市下京區烏丸七條(電下八七三)

【業況】本店が震災を免れたのは強味、岐阜豊橋分店の震災で二百萬圓の特別損失だが問題にならぬ。現在本店の賣場は三階迄三千坪だが七月から七階迄全館に擴張する。岐阜、豊橋は既に復興し、舞鶴西陣に分店を設けた。本店内の直營映畫劇場も驛前の地の利で價つてゐる。
【前途】土地柄から他の大都市程積極的躍進は見られぬが却て着實である。

【事業】百貨店
【資本金】拂込済 三、五〇〇
【株數】(五〇) 九〇、〇〇〇
【株主】(三・三) 七八九名
豊國殖産 一三、八六〇
中林仁一郎 一〇、八〇〇

【重役】社長 中林仁一
専務 大里國孝
常務 三井信治 取
締 奥五一郎 下郷
良順 宮川節郎

【業績】純益 同率 配當
二〇・八 三三・七 一〇・一 〇・六〇
二二・二 三三・七 一〇・一 〇・六〇
二二・八 二四・七 一〇・〇 〇・六〇
二二・八 一四・〇 〇・七

十

合

【設立】大正八年十二月
【決算期】二月 八月

【本社】大阪市西區土佐堀通一ノ一(電土佐堀三三三)
【營業所】大阪市內四カ所、神戸、京都

【特種除外】戦補打切損失は在外資産を合せて二百六十萬圓を計上したが、經理内容の堅實味が買われて昨年十二月特種會社を除外された。
【業態は好調】昨年四月本店々舗がPXに接收されたが程なく新店舗を獲得、現在は難波に小賣店を、大阪驛脇に全國食品市場を、本社所在の大同ビルに卸商品館を夫々開業、近く阿倍野店を設ける筈。賣上は各店とも好調一途だ。

【事業】百貨店
【資本金】公稱 四、〇〇〇
【株數】(五〇) 三、三三〇
【株主】(三・三) 六〇、〇〇〇
新(三・三) 三〇、〇〇〇
板谷生命(新) 三〇、〇〇〇
板谷宮吉 一七、七四〇
十合正一 六、〇六三

【重役】會長 板谷宮吉
社長 土屋啓造 專
務 木水榮太郎 小
川吉久 常務 石田
嘉男 外二名 取締
板谷順助 外二名
【業績】純益 同率 配當
二〇・二 八・七 二・六 〇・八
二二・二 六・八 一・八 〇・八
二二・二 七・四 一・八 〇・八

丸

榮

【設立】昭和十八年八月
【決算期】二月 八月

【本社】名古屋市中區榮町四ノ一 (電東三六一)

【復興】北館(舊十一屋店舖)は昨年末三階まで、本館(舊三星店舖)は六月復舊、この外南館と丸榮會館を新築、合併前よりも華々しく營業中だ。繁華街に店舖を構えているだけに最近の賣上高は一ヶ月一千五百萬圓に上る。
【増資】百六十萬圓の特別損失を利益金と評價替で埋めて特種會社解除次第、一千萬圓に増資し得る様議決済、使途は勿論復興用。

【事業】百貨店
【資本金】拂込済 三、一〇〇
【株數】(五〇) 六三、〇〇〇
【株主】(三・六) 五九四名
丸物 四、二七〇
濫定株式會社 二、〇〇〇
富田重助 二、〇〇〇
中林仁一郎 一、七五九
中村與右衛門 一、七〇〇

【重役】社長 中林仁一
専務 山口義治
取締役 柳原六郎 西
川原八郎 小出篤三
中村與右衛門 後藤
幸三 富田重助 配當
【業績】純益 同率 配當
二〇・八 一三・九 〇・九 〇・六
二二・二 一七・四 一・〇 〇・六
二二・八 三・八 二・八 一

松

竹

【設立】大正九年十一月
【決算期】二月 八月

【本社】東京都京橋區新富町三ノ五(電築地三三〇)
【支社】大阪市南區久佐衛門町八(電南一八六)

【業況】フィルム不足、電力制限等悪條件が相俟つた今期乍ら、純益金で四倍以上の上昇を見て、五分配當をつけた。映畫の有つ強味もさることながら、怪物松竹の底力は測り知れぬ。
【獨占】獨占禁止法で大松竹の獨占的興行網持株會社として見た當社關係會社等がどういふことになるか。追放問題もからまつて、當企業體の前途は豫斷を許さない。

【事業】映畫演劇
【資本金】公稱 八〇、〇〇〇
【株數】(五〇) 七五九、〇三五
【株主】(三・三) 八四〇、九七五
新(三・三) 二、四七三名
第一映畫證券 九、〇五〇
千日土地建物 四、九〇〇
淺草樂天地 二、三、四一五
第一興業 三、二、七〇七

【重役】會長 白井松次
社長 大竹竹次
副社長 戶重正郎
専務 井上重正 大
谷博 野村高村 大
雄一 星野欽治 高橋
【業績】純益 同率 配當
二二・五 二・八 〇・五
二二・五 二・八 〇・五

東

寶

【設立】昭和七年八月
【決算期】一月 七月

【本社】東京都中央区銀座七ノ一（電銀座五九〇六）
【支社】關西、中部、九州、北海道

【經營陣】過般重役陣が一齊に辭任した。パージ問題を先見したこと、對組合問題等によるものらしい。が、退社によつて縁を切つたわけではなく、社外にあつて貿易再開時の準備研究接渉を着々と進めるものと思われる。

【業況】四千萬圓に増資、純益金五割増、同率三分減の成績だ。勞働攻勢等でやむを得ない。差當り前途に懸念はない。

【事業】映畫製作、劇場

【重役】社長 田邊加多丸 取締役 林正之助

【資本金】拂込済四〇、〇〇〇
【株數】(五〇) 二、〇〇〇、〇〇〇
【株主】(三〇) 一九、二八三名
小林合名會社 三六、一〇〇
大澤善夫 三〇、八〇〇
大橋武雄 二七、二〇〇
松岡潤吉 二七、一五〇
岸本兼太郎 二〇、二〇〇

【事業】映畫の興行及其
【資本金】公稱 二五、五九五
【株數】(五〇) 二四、〇〇〇
【株主】(三〇) 一、〇八二名
日活社友會 一、〇八二名
期久作 三六、一八四
第百生命 二五、六〇二
一四、九五〇

【重役】社長 小倉健一 三、五〇〇
常務 小倉照子 三、五〇〇
村武 須田丙三 仲江
守清 樹郎 取締 江
【業績】純益 同率 配當
二一、一〇〇、〇〇〇
二一、七〇〇、〇〇〇
二一、二〇〇、〇〇〇
二一、九〇〇、〇〇〇
二一、七〇〇、〇〇〇

日

活

【設立】大正元年九月
【決算期】一月 七月

【本社】東京都中央区京橋三ノ一（電京橋三三三）
【支社】京都市中京區烏丸通り三條下ル慢頭屋町

【開放と三倍増資】松竹、東寶の支配下から脱却、獨立會社となると同時に三倍増資を敢行したが業績は益々好調で、製作部門を持たぬ點で危な氣なく常に一頭地をぬいている。

【どう發展するか】傘下五十餘館を全部洋畫上映館としたこと、堀社長の卓絶した經營力で前途の飛躍が期待されているが、製作部門への進出も此の際考慮すべきであるまいか。

大

映

【設立】昭和十七年一月
【決算期】一月 七月

【本社】東京都中央区京橋三ノ十一（電京橋五二七）
【支社】大阪、名古屋、九州、北海道

【増資】現在資本金七百七十萬圓を二千萬圓へと約三倍に増資する。新株二十四萬六千株中十五萬四千株を一對一の割合で舊株主に割當て他は役員、従業員、關係者に割當てる。右増資は製作所の建物、撮影機等の修理に充てる。資本負擔は増すが五分配當に懸念なし。
【獨立】日活と共に松竹、東寶の資本支配を脱し、自主的經營の好機に際會。

【事業】映畫製作
【資本金】拂込済 七、七〇〇
【株數】(五〇) 一、五〇〇、〇〇〇
【株主】(三〇) 二、二九九名
東寶 一五、〇〇〇
日本映畫證券 一〇、〇〇〇
河合徳三郎 八、九五六
日活 七、三〇三
金子和助 六、九〇八

【重役】社長 永田雅一
取締役 河合能齊 常務
史六郎 石川俊重 會我正
辰五郎 藤田孫兵衛
酒井箴 藤井朝太
常務 神崎總司
【業績】純益 同率 配當
三二、七〇〇、〇〇〇
三二、七〇〇、〇〇〇
三二、一〇〇、〇〇〇
三二、一〇〇、〇〇〇
三二、一〇〇、〇〇〇

新日本興業

【設立】昭和二十一年六月
【決算期】三月 九月

【本社】東京都千代田區内幸町一ノ二（電銀座五〇三）
【出張所】大阪、九州、北海道、名古屋

【初決算】三月決算は九十四萬圓の赤字を出し内容以上に買われていた、新進興行株に暗いかげを投げた。建設過渡期の當社の如きも初決算に赤字を出すのは、何の不思議もなく、たゞ經營陣が無責任に強氣を表明していた點に問題がある。

【今後】何處も同じく資金難で、日本製陶社長鈴木一弘氏の經營參加は色々に取沙汰ある。

【事業】常設館經營其他
【資本金】拂込済 三、〇〇〇
【株數】(五〇) 六〇〇、〇〇〇
【株主】(三〇) 一、九二〇名
東京急行 一、〇〇〇、〇〇〇
日興證券 三〇、〇〇〇
野村證券 一一、〇〇〇
大福證券 七、〇〇〇
山一證券 七、〇〇〇
【業績】純益 同率 配當
三三、〇〇〇、〇〇〇
三三、〇〇〇、〇〇〇
三三、〇〇〇、〇〇〇
三三、〇〇〇、〇〇〇
三三、〇〇〇、〇〇〇

スバル興業

【設立】昭和二十一年三月
【決算期】二月 八月

(本社)東京都中央区銀座六ノ四

【堅實經營】當社は終戦後放出した映畫會社のうち最も早くスタートし、そのさん新な經營、立地條件、堅實な經營方針にめぐまれ、順調な發展をとげつつ前途發展が注目されている。
【近く増資】スバル、オリオン、名畫座に加え京都、大阪にも直營館を加え、また當局者は極秘裡に新計畫(緑地遊園業)を樹立しているから近く三千萬圓への増資が期待される。

【事業】洋畫上映
【資本金】拂込済 一五、〇〇〇
【株数】(株) 一〇〇、〇〇〇
【株主】(名) 二、〇四九名

【重役】社長 遠山不羈
副社長 山端啓之助
専務 藤村一良
常務 佐藤利雄
山本延太郎 山崎寛
天田伊兵衛 富永眞
造 森戸武雄

【業績】純益 同率 配當
三三・二 六八六一・〇〇

日本光音

【設立】昭和二十一年四月
【決算期】三月 九月

(本社)東京都北多摩郡武蔵野町吉祥寺一六三五
(支社)東京都中央区銀座西八丁目六

【三倍増資】昨年十二月五百萬圓に増資、矢張り本年六月一千五百萬圓への増資を實現した。これで當面の資金難は解消し、いよいよ事業整備、發展への第一歩を踏み出した。
【内容未だし】十六耗、三十五耗映寫機の製作を主に附帯事業の總合經營をねらっているが、現行五分配當には無理がある。商況に問題はなすが、この際内容の充實に専念すべきだ。

【事業】映畫機械の製作
【資本金】拂込済 一〇〇、〇〇〇
【株数】(株) 一〇〇、〇〇〇
【株主】(名) 五九名

【重役】社長 三保幹太
副社長 山田英吉
常務 竹井青
専務 河本正男 齋藤左源
太田野村進 飯塚雄
志平川政則 常監
山本覺逸

【業績】純益 同率 配當
三三・二 一五八〇・一五

キララ興業

【設立】昭和二十二年四月
【決算期】二月 八月

(本社)東京都中央区銀座六ノ四
(電話座六〇五—六)

【經營】昨年十二月資本金十五萬五千圓で創立し本年三月五百萬圓に増資、新株の一部七萬株(二十圓拂込)が公募された。建築制限で新築困難とみて、買収、委託經營中心だ。經營館は大井文化、豊川映畫、豊橋松竹に各一館、六月から名織會館、七月から豊橋劇場が開館した。
【増資】その後積極的で、七館買収を狙い六倍増資を申請したが許可はない。

【事業】映畫常設館の經營
【資本金】拂込済 五、〇〇〇
【株数】(株) 二五〇、〇〇〇
【株主】(名) 二、〇〇〇名

【重役】會長 藤山愛一
副會長 倉澤各
三郎 社長 大野孝
雄 常務 野田順一
榮田芳男 角田莊太
郎 取締役 海東要藏
大矢知昇 戸田武俊

【業績】純益 同率 配當
三、七五〇

【事業】興行、土地建物
【資本金】拂込済 七、四七三
【株数】(株) 一四九、四四〇
【株主】(名) 六九三名

【重役】社長 白井信太
郎 取締役 馬渡俊雄
多田安雄 澤瀨豊一
監査 田尻經道

【業績】純益 同率 配當
一九・一 三三〇〇・九四
二〇・一 三二九〇・八四
二一・一 六三三〇・三八

千日土地建物

【設立】大正二年四月
【決算期】十一月

(本社)大阪市南区難波新地三番丁ノ一
(電話三〇八—一〇)

【實態】社名は土地建物でも實態は關西最大の興業會社だ。經營座館は大阪歌舞伎座、大阪劇場を初め京阪神三都に十三館、外にキヤパレ一五ヶ所がある。大劇は當社の當社のドル函、他座館もおしなべて好況を謳っている。
【倍額増資】今春三月懸案の倍額増資を斷行、全額を一舉に徴収した。戦災劇場の復舊、既存設備の改修のため増資は必至とみるべきだ。

【事業】興行、土地建物
【資本金】拂込済 七、四七三
【株数】(株) 一四九、四四〇
【株主】(名) 六九三名

【重役】社長 白井信太
郎 取締役 馬渡俊雄
多田安雄 澤瀨豊一
監査 田尻經道

【業績】純益 同率 配當
一九・一 三三〇〇・九四
二〇・一 三二九〇・八四
二一・一 六三三〇・三八

【事業】興行、土地建物
【資本金】拂込済 七、四七三
【株数】(株) 一四九、四四〇
【株主】(名) 六九三名

【重役】社長 白井信太
郎 取締役 馬渡俊雄
多田安雄 澤瀨豊一
監査 田尻經道

【業績】純益 同率 配當
一九・一 三三〇〇・九四
二〇・一 三二九〇・八四
二一・一 六三三〇・三八

オーエス映畫劇場 【設立】昭和二十一年十二月

【本社】大阪市北區角田町四一（電福島三三六）
 【營業所】神戸市生田區加納町阪急會館

【創業経緯】大阪梅田娛樂街に唯一の外畫専門館として小林一三氏の發起で創業した。經營陣は興行界の現役員と阪急系が占めてゐる。

【發足後の業績】オーエス劇場（千五百三十名定員制）は昨秋起工以來鋭意完成を急いでおり早ければ七月に開場の豫定だ。現在は神戸三宮の阪急會館を電鐵より借りうけて邦畫上映を行つてゐるが、營業成績は累月増加を辿つてゐる。

【事業】各種興行經營	【重役】社長 寺本熊俊
【資本金】公稱 拂込 10,000	取締役 北尾清 堀久
【株數】(50) 200,000	佐川春夫
【株主】(30) 5,500名	【業績】純益 同率 配當
東寶 30,000	
大喜多一雄 13,900	
川端直信 10,000	
大同生命 1,500	
第一生命 1,500	

京阪神急行共濟會

御園座 【設立】明治二十九年六月

【本社】名古屋市中區南園町一ノ十二
 【決算期】一月（年一回）
 （電本局五三〇一一）

【復興】當座は戰災で全焼。今春から本建築に着手したが、八月中旬には竣工、八月末こけら落しの豫定。以前から松竹、東寶が大株主で東西大歌舞伎其他の優秀劇團の常時出演が約束付けられてゐるから、開場後の經營は順調に推移しよう。五分配當可能の見込。

【再増資】完成までに尙相當の資金を必要とするから、再増資も遠くなからう。

【事業】劇場經營	【重役】社長 磯貝浩
【資本金】拂込済 10,000	専務 猪飼正一
【株數】(100) 8,070名	取締役 長谷川榮一
【株主】(30) 11,500	井信太郎 小尾悦太
松竹 11,500	監査 林文左衛門
東寶 11,500	【業績】純益 同率 配當
長谷川榮一 11,500	
加藤勝太郎 11,500	
磯貝浩 11,500	

近畿映畫劇場 【設立】昭和十二年四月

【本社】大阪市阿倍野區阿倍野筋一ノ一
 （電天王寺三二四六）

【經營概要】當社は昭和十二年四月大鐵映畫劇場として資本金百萬圓を以て設立、同十九年現社名に改稱した。持株會社の近畿日鐵が獨占禁止に即應して本年二月總株數の九割に當る持株を公開したため一躍市場性を有つに至つた。經營座館は大坂阿倍野に三館、最近奈良に一館を建設し、成績は何れも好調だ。本年四月四倍増資を行ない全額拂込を徴收した。

【事業】各種興業經營	【重役】社長 小松茂三
【資本金】拂込済 10,000	取締役 淺田敏章
【株數】(20) 500,000	他一名 監査 砂田
【株主】(30) 150,000	治雄 他一名
近畿日鐵 79,000	
森田勝治 4,900	
中谷爲太郎 1,000	
小松茂三郎 1,000	
種田虎雄 1,000	

井上昌二

東横映畫 【設立】昭和十三年六月

【本社】東京都澁谷區上通二ノ五五
 【事務所】中央區銀座座西四ノ三（電銀座五七一九）

【勝眼】東急の副業部門として發足した當社は昨年二月、資本金五十萬圓から三百萬圓に増資し、現在直營十二、共同經營一の計十三館を有し、さらに大映と提携製作にも乗出した。

【再増資】このほど二十萬圓への七倍弱増資を決定し本格的に製作を行うが、なお當社の特異な面に全農とタイアップして農村巡回興行がある。業績は好調で前途は明るい。

【事業】映畫ノ製作及映	【重役】會長 尾川武夫
【資本金】拂込済 30,000	社長 黒川涉三
【株數】(50) 60,000	専務 吉江澄高
【株主】(30) 11,500	取締役 浦川上田甲中
東京急行電鐵 11,500	監査 原島亞五郎
五島慶太郎 11,500	在郎 大川博三
小林源一郎 11,500	唐澤俊樹 三宮四
日本興業 11,500	【業績】純益 同率 配當

東京興行

【設立】昭和二十一年六月
【決算期】一月 七月
（本社）中央區日本橋江戸橋一ノ七（山叶ビル）
（電日本橋三二一九）

【概況】當社は昨年六月資本金八十萬圓を以て創立、同年末京橋際にテアトル銀座を開館した。今春倍額増資して同館の改装を行うと共に中野に一館を獲得した。最近さらに澁谷に大映と共同で直営館を設けるなど發足が運れた割にその進出振りは顯著だ。
【再増資】なお當社は澁谷在の既設館を買収するために九百萬圓に再増資した。

【事業】演劇、映畫其他
各種興行娛樂機關の經營
【資本金】拂込済 三、六〇〇
【株数】(三〇) 一〇〇,〇〇〇
【株主】(三〇) 六三名
新日本生命 一〇,〇〇〇
牧野昭一郎 七,〇〇〇
中野重三郎 五,〇〇〇
吉岡重三郎 三,〇〇〇
【重役】社長 吉岡重三
専務 伊藤惠之助
常務 三橋三之助 清水清
三橋三之助 中野重三
秋元五郎 寺元五郎
太田辨次郎
【業績】純益 同率 配當

日本漫畫映畫

【設立】昭和二十二年四月
【決算期】三月 九月
（本社）東京都港區芝新橋一ノ三〇山口ビル

【特徴】わが國最初の漫畫映畫専門會社で繰字幕の製作をも行う。わが國で漫畫映畫の歴史は古いが、從來パツとしなかつた。業界の最高技術者が集つて出來たのが當社である。
【今後】收支豫算は一カ年五百八萬圓の收入で四百二十二萬圓の支出、差引利益八十六萬五千圓をあげる豫定だといふ。製作擴充の計劃を持つてゐるが、當面は堅實經營が必要。

【事業】映畫製作
【資本金】拂込済 三、〇〇〇
【株数】(三〇) 五〇,〇〇〇
【株主】(三〇) 六八二名
山一證券 一六,〇〇〇
山叶證券 一三,〇〇〇
飯島徳太郎 二二,〇〇〇
【重役】社長 飯島徳太郎
常務 藤本信太郎 村田安司
雄本西倉喜代次 本多春
田尻 監査 江川得治
【業績】純益 同率 配當

後樂園スタヂアム

【設立】昭和十一年十二月
【決算期】十一月(年一回)
（本社）東京都文京區春日町一ノ一
（電小石川三三・三三〇七）

【再増資】昨年十二月二百萬圓から五百萬圓に増資した當社は本年六月更に四倍の二千萬圓に再増資した。増資目的は球場改修費と隣接土地建物の買収費に充てる。
【好調】戦時中の壓迫から解放された當社は昨年度決算で利益率一割七分の好成绩を収め、待望の五分初配を行った。野球熱の昂揚と共に今後の業績も益々好調を續けよう。

【事業】野球興行其他スポーツ及競技全般
【資本金】拂込済 二〇,〇〇〇
【株数】(三〇) 一〇〇,〇〇〇
【株主】(三〇) 一、五七七名
東寶 一、七〇〇
田邊宗英 一、七〇〇
日本興業 六、八〇〇
後樂園商事 三、二九〇
【重役】社長 秦豊吉
専務 田邊宗英
常務 八千代 宗英 副
月野安文 風間健治 那
波村重紀 尾川武夫
津林喜三郎
小林喜三郎
【業績】純益 同率 配當

日本拳闘

【設立】昭和二十一年六月
【決算期】三月 九月
（本社）中央區木挽町一ノ十三（電京橋九三〇）
（關西支社）芦屋市西山町一五二

【スタート】興行會社中の異色たる當社は拳闘興行場の經營並興行とその普及を目的とするが昨年十月本邦最初のボクシングホールを開設した。このため創立資本金十八萬圓から三百萬圓に増資したが、さらに池袋日拳會館建設のため本年四月三倍強の一千萬圓に増資した。
【有望】去る三月末の第一期決算で早くも五分の初配を斷行、今後拳闘の普及と共に有望。

【事業】拳闘興業及其他附帶事業
【資本金】拂込済 一〇,〇〇〇
【株数】(三〇) 五〇,〇〇〇
【株主】(三〇) 三三名
山一證券 三三,〇〇〇
玉塚證券 三三,〇〇〇
長井金太郎 二五,〇〇〇
水田直吉 一五,〇〇〇
荒木一郎 四,〇〇〇
【重役】社長 長井金太郎
専務 萩野貞行
常務 高岸近治
戸西三 長嶋喜三
伊藤幹一 取締 三
部利佐久 大塚謙四
郎 喜多村實
【業績】純益 同率 配當

國際觀光

【設立】昭和二十二年三月九日
【決算期】三月九日

（本社）千代田區丸の内三ノ四（電九ノ内三〇六）
（營業所）熱海市池畑一三八（電熱海七七）

【株 價】社名と事業の處女性から内容以上に買われた感がある。これは最近訂正されつゝある。

【内 容】目論見書はいろいろ列べてあるが、稼いでいるのは、熱海のヨカンボーだけで、あとは芦ノ湖の岩崎邸を買収交渉中とか。沖繩漁業家との連繫による漁撈、また農耕等も計畫中、本格的な事業策望を要する。

【事業】ホテル、娯樂場、其他觀光施設及輸送藝術文化の交流

【資本金】拂込済 100,000
【株数】(50) 100,000
【株主】(3) 720名
同和火災 3,000
帝國生命 3,000
油谷國政 3,000

【重役】社長 荒川昌二
【重役】社長 寺田甚吉
常務 西本 荒川昌二
常務 久朝 西本 荒川昌二
常務 小光 油谷國政
常務 小畑 油谷國政
常務 佐野 繁次郎
常務 崎真一
【業績】純益 同率 配當

東洋觀光興業

【設立】昭和二十一年七月
【決算期】五月三十一日

（本社）東京都中央区日本橋堀留町二ノ八
（電茅場町四〇三—六・二四九・二四四〇）

【建材との關係】他の觀光會社と違つて、パツクに日本建材をもち、兩社の總合經營で成立つてゐる點が強味だ。觀光關係の建物だけでも淺草松竹座前鐵筋四階建、雷門前の鐵筋五階建、のほか、伊豆今井濱宮家別邸、熱海壽山園、麻布竹谷町清風園、小田原の古稀庵等がある何れもホテル、高級クラブにする。

【初決算】別表の如く五百五十萬圓を挙げ好調

【事業】ホテル、建築不動産買賣
【資本金】拂込済 100,000
【株数】(50) 100,000
【株主】(3) 720名
武田要輔 70,000
山一證券 20,000
武田保一 10,000
山根直次 3,000
山根定人 3,000

【重役】社長 武田要輔
常務 吉潮文雄 武
田良一 武藤久幸 武
取締 友壽清晴 加
藤行清 山下穰 山
本寶 監査 原田重
【業績】純益 同率 配當

日本觀光

【設立】昭和七年四月
【決算期】四月十月

（本社）東京都中央区寶町一ノ二（電京橋三三三）
（支社）石川縣石川郡湯涌谷村字湯涌へ二五

【白雲樓】當社は白雲樓の改稱せるもの金澤市郊外湯涌温泉にある白雲樓は櫻井代議士の設立にかゝり、敷地十萬坪、鐵筋コンクリート建の本格建築で、古いだけに著しく低評價になつてゐる。今は進駐軍用だ。

【増資公開】この春五十萬圓を五百萬圓に増資白雲樓隣接土地家屋の買収其他にあてた。新たに始めた熱海紀雲閣のホテルも進捗。

【事業】温泉の娯樂溫泉
【資本金】拂込済 100,000
【株数】(50) 100,000
【株主】(3) 720名
康樂寺 23,000
山陽土地 6,280
嶺南土地 4,500
櫻井清次 4,000
松尾敏雄 3,000

【重役】社長 櫻井清次
副社長 加藤正男 常務
加藤進二 早速重夫
取締 芳忠 城森文次 櫻井
查忠 高木與四郎 渡
邊甚吉 柳田良作
【業績】純益 同率 配當

東京建物

【設立】明治二十九年八月
【決算期】二月八月

（本社）東京都中央区日本橋吳服橋三ノ七
（電日本橋三二一—五）

【特別損失】外地資産二千萬圓と戦保三百萬圓の補償損に對し諸積立金は五百萬圓だから特別損失は一千八百萬圓に上る。

【對 策】戦災は東京本社の一部に止まり京都大阪、福岡等の鐵筋建物は無傷で固定資産の含みは莫大だ。これが認められれば減資の要はない。今後は建築部門を強化し、現状の不味を打開せんとしている。

【事業】不動産買賣貸借
【資本金】公稱 26,375
【株数】(50) 100,000
【株主】(3) 720名
安田銀行 1,859名
安田保善社 1,378名
安田生命 45,247

【重役】社長 安田火災 23,000
常務 加藤 磯部 橋之
承務 専務 藤村 謙二
常務 大泉 哲 中條 橋
吉 大 苗 唯 儀 川 山
二 太 郎 名 須 川 山
【業績】純益 同率 配當

東亞港灣工業

【設立】大正九年一月
【決算期】四月 十月

(本社)東京都中央区銀座西七ノ三(電銀座四二七三)
(出張所)京濱、大阪、長府、千葉

【淺野色】前の東京灣埋立で、同業では阪神築港と双壁をなす。淺野關係の財閥會社として制限會社に指定されている。

【補償關係】戰時補償特別税二百萬圓、在外資産百三十六萬圓、子會社の持株の値下り三百萬圓、計六百萬圓内外、見合勘定は積立金二百萬圓だけで、四百萬圓不足、この種會社としては資本が大き過ぎ、三分の一減資至當か。

【事業】土地の埋築、家屋の建築及其買貨貸借、港灣の諸設備
【資本金】拂込済 一三〇、〇〇〇
【株数】(五〇) 二七〇名
【株主】三・五 七八、〇九七
淺野本社 三三、〇八六
持株會社 三三、〇八六
東京建物 一、九〇〇〇

【重役】社長 尾高合名會社 二〇、九五六
【重役】社長 岡部三郎
專務 佐原勇作 小
榮健太郎 監査 安井
家欣吾 監査 安井
正否
【業績】純益 同率 配當 一

日本不動産

【設立】明治三十九年五月
【決算期】五月 十一月

(本社)東京都千代田區内幸町一ノ一
(電銀座四八九一)

【補償損失】補償打切り損は戰災保險百十八萬圓、有價證券値下り損七十萬圓等があるが、これは内部蓄積を以て補填可能だから殆ど影響は彼らない。所有不動産の簿價六十萬圓には五倍の含みを有し、土地の坪當り評價が五、六十圓に過ぎぬことは之を裏書している。

【今後】不況期には逸早く影響を受け、好況期にこの反對という事業の特性は惠まれぬ。

【事業】不動産擔保、管理其他建築
【資本金】拂込済 一〇〇、〇〇〇
【株数】(五〇) 一〇〇名
【株主】三・三 三三六名
大和生命 二四、〇〇〇
共同保金 一六、〇〇〇
前山安平 一〇、〇〇〇
新日本生命 一〇、〇〇〇
閉鎖機關 三、〇〇〇

【重役】會長 前山安平
社長 齊藤幸太郎
常務 杉浦清三 牧
廣一 監査 前山慶
三郎
【業績】純益 同率 配當

復興建築助成

【設立】大正十四年十二月
【決算期】六月 十二月

(本社)中央区日本橋蠣殻町(電茅場町二七三)
(支社)横濱市中區山下町二三一

【復活】震災の復興を目的として創立された當社は、戰前、戰時を通じ殆んど活躍しなかつたが、今度は戰災復興に役擔い本來の業務に活路が拓けたわけだ。

【發展期待】現在は木造建築を主として、資金貸出を行っているが、僅か二百五十萬圓の拂込資本ではやつてゆけぬ。爲すべき仕事は多々ある故、未拂込徴収を早急に實現しよう。

【事業】建築、建築資金の貸出
【資本金】公稱 一〇、〇〇〇
【株数】(一〇・五) 二〇〇、〇〇〇
【株主】三・二 二、〇九六名
小侯寅造 一〇、〇〇〇
坂口公一 九、六〇〇
持株會社 八、五〇〇
同和火災 五、八七〇

【重役】社長 東京海上 四、五〇〇
取締役 鈴木敬一
取締役 原邦造 佐野
利器 山田丑藏 渡邊
查 渡澤義一
利二郎
【業績】純益 同率 配當 一

日本ブルドーザー工事

【設立】昭和二十二年五月
【決算期】四月 十月

(本社)大阪市北區網笠町一(堂ビル六階)

【事業】ブルドーザーを使用して農地開拓並に戰災地の整理、道路開設等を行う日本で初めて出來た會社である。

【前途】創立早々の事として成績は擧つていないが、前身たる三共物産の成績は良好であつたから、當社の成績も日が経つに連れて向上するだろう。近く三倍増資を計畫中で、實現後は機械の充實により發展が期待される。

【事業】ブルドーザーによる整地
【資本金】拂込済 三〇、〇〇〇
【株数】(五〇) 六〇、〇〇〇
【株主】三・五 五八名
三共物産 三三、七九〇
田原稷 七、四〇〇
山本元三 一、七六〇
橋熊田政一 一、七六〇
小倉榮次 一、六〇〇

【重役】社長 松本七郎 一、二〇〇
常務 青木益次 取
締 松本七郎 監査
山本元三
【業績】純益 同率 配當

三菱倉庫

【設立】明治十二年四月
【決算期】六月、十二月

【本社】東京都中央区日本橋江戸橋一ノ一
【支店】東京、横濱、名古屋、大阪、神戸、門司

【特損】補償打切り損は戦補特別税が約二千萬圓、第二封鎖六百萬圓、其他を合せ計三千四百萬圓だが、諸積立三千五百萬圓を擁するのでその補填は問題なく行える。

【業績】昨年八月十日の打切決算は僅か一月餘の營業だったが、四十七萬二千圓の純益を挙げた。當時の保管貨物七億圓に對し現在は一億圓に上り、業績は引續き好調だ。

【事業】倉庫業	【重役】社長 大住達雄
【資本金】公稱 一五、〇〇〇	常務 三田壽雄
【株數】舊(五〇) 二〇〇,〇〇〇	川友十郎 取締役
新(三五) 二〇〇,〇〇〇	梶俊治 戸田正五
【株主】三上 一、二八三名	監査 山田作之助
持株會社 一、四四、一七〇	神品芳博 同率 配當
三菱本社 四三、一三〇	【業績】純益 同率 配當
明治生命 四〇,〇〇〇	二一、六二、三五〇
東京海上火災 三三、三三〇	二一、八、四七三

三井倉庫

【設立】明治十二年十月
【決算期】六月、十二月

【本社】東京都中央区日本橋箱崎町三ノ一二
【支店】東京、横濱、名古屋、大阪、神戸、門司

【業績】輸入食糧、特殊物件、隠匿物資、見返り輸出品等の入庫で、昨年八月十日現在の保管残高九億四千萬圓は、本年六月には約二十億圓に増大した。保管貨物残高は各社中第一位である。

【今後】貿易再開と共に一段と繁忙を呈する筋合にあり、今後も好況を持続しよう。補償損一千九百萬圓も積立金と含みで償却は樂。

【事業】倉庫業	【重役】社長 武田正泰
【資本金】公稱 一五、〇〇〇	常務 田島光三
【株數】舊(五〇) 一〇〇,〇〇〇	川定一 中村信一郎
新(三五) 二〇〇,〇〇〇	取締役 原田節夫
【株主】三井本社 三〇〇,〇〇〇	枝後三郎 竹内自益
三井本社 三〇〇,〇〇〇	監査 目賀多正一
	【業績】純益 同率 配當
	二〇、二一、八〇九
	二一、六一、九九三
	二一、六一、九九三
	二一、八一、六五九

東陽倉庫

【設立】大正十五年三月
【決算期】五月、十一月

【本社】名古屋市中村區日置通三ノ二十
【支店】堀川、築港、津島、一宮、豊橋

【復興】戦災の爲め所有倉庫二萬六千坪が六千六百坪。即ち二五・三%に激減した。今春漸く六百坪新築したが、資材難で復興至難。殊に特選會社だから出来るだけ早く解除の上、未拂込徴收、増資により本格的復興を計畫中だ。

【業績】保管貨物の値上りに伴い保管料も必然著増したが、他面人件費その他諸経費が暴騰したため、利益金は左程増加していない。

【事業】倉庫業、代理業	【重役】社長 磯貝浩
【資本金】公稱 六、〇〇〇	副社長 白石勝彦
【株數】舊(一〇〇) 三、〇〇〇	加藤謙二 取締役
新(二七・五) 一〇、〇〇〇	野三郎 生駒重彦
【株主】三三、五	【業績】純益 同率 配當
住友倉庫 二八、三二〇	二〇、一一、〇〇〇
	二一、五、〇〇〇
	二一、八、一〇〇

日本銀行

【設立】明治十五年十月
【決算期】三月、九月

【本店】東京都中央区日本橋
【支店】全國二十七支店、二十四事務所

【業績】最近の業績は低調を極めている。即ち、昨年九月初期には舊圓封鎖、新圓發行關係の支出かさんで剰餘金は八十五萬圓に止まり、また本年三月初期においても、諸統制事務や經常的出費の増嵩とで同九十三萬九千圓であつた。

【改組必要】將來の問題としては、金融界全體の組織替へと並んで、日銀改組も必至だが、元々國有に近いのだから影響は少ない。

【事業】金融、發券	【重役】總裁 川北一
【資本金】公稱 一〇〇,〇〇〇	持株會社 一、九二四
【株數】舊(一〇〇) 五〇,〇〇〇	理事 登川北一
新(三三) 二〇〇,〇〇〇	田利三郎 同率 配當
【株主】三三、五	【業績】純益 同率 配當
政府 二〇、九、九八〇	二〇、九、九八〇
宮内省 二〇、九、九八〇	二〇、九、九八〇
新日本生命 八、七二〇	二〇、九、九八〇
安田銀行 三、二三八	二〇、九、九八〇

日本勸業銀行

〔設立〕明治三十年六月
〔決算期〕三月 九月

(本店) 東京都千代田区幸町一ノ一
(電九ノ内三〇一・六二二一八)

〔増資〕軍需補償打切りによる打撃の少くなかつた當行は、農業金融から事業金融に移行した。したがつて資金がすくなく、債券發行限度に達したので資本金を三億圓にした。
〔債券發行〕増資後第一回の債券五億圓を發行したが、市場不振にかゝらず四億三千萬圓を消化し、底力を發揮した。

【事業】金融業	三〇〇,〇〇〇	福岡縣	一六,六六六
【資本金】公稱	二七四,三七六	埼玉銀行	一六,五五五
【株数】		【重役】	
舊(五〇)	二,五五五,〇九九	副 山田義見	理事
新(二・五)	六八三,三〇五	堀武香	伊藤靖祐
【株主】三・六	七五,一〇一名	濱口巖根	同率 配當
明治生命	三九,六七四	【業續】純益	同率 配當
大藏大臣	二六,五九五	【業續】純益	同率 配當
日本貯蓄	一八,四五六	【業續】純益	同率 配當

日本興業銀行

〔設立〕明治三十五年三月
〔決算期〕三月 九月

(本店) 東京都千代田区丸ノ内一ノ八ノ一
(電九ノ内三五二・三六一)

〔打撃は大きい〕興銀の打撃の大きいことは周知の通りだ。資本も勿論とぶし、政府補償も相當必要だ。最近の營業はしたがつて随分手堅く問題となつた日銀からの借入れもすくない。
【第二會社】第二會社として誕生するが、資本金のきめかたが問題で、債券發行が、既發債券と關係なく發行出来るかどうかによつてきまる前途は困難でも一應安定する見込み。

【事業】金融業	二〇〇,〇〇〇	三和銀行	一九三,六六〇
【資本金】公稱	一七七,五〇〇	住友銀行	一七六,〇〇〇
【株数】		【重役】	
舊(五〇)	一,〇〇〇,〇〇〇	副 岸喜二	栗栖赴夫
新(三・五)	三,〇〇〇,〇〇〇	木村正	佐分利一
【株主】三・六	九,二二三名	島田英一	中山泰平
帝國銀行	三七九,八〇〇	坂口吾郎	石川一郎
三井銀行	三三三,〇〇〇	片岡直方	同率 配當
安田銀行	二二三,九〇〇	【業續】純益	同率 配當

帝國銀行

〔設立〕昭和十八年四月
〔決算期〕三月 九月

(本店) 東京都千代田区丸ノ内一ノ一
(電九ノ内二二二・二五八・二七二・二七九)

〔整理狀況〕當行も資本金の九割打切り、第二封鎖の大半打切りは、他行と變りない。しかし全體として、企業資産の値上りから整理に關しては、一年前より著しく悲觀の度を弱めている。
【なお多難】しかし、最近の手詰り甚しく、勞々資金統合銀行を通ずる地方銀行その他よりの債務が直接かぶさつてきたので、今後なお多難を豫想される。

【事業】金融業	二二〇,〇〇〇	蓬萊殖産	一〇〇,〇〇〇
【資本金】公稱	一四八,一二五	三井本社	一〇〇,〇〇〇
【株数】		持株會社	六〇,〇〇〇
舊(五〇)	一,九五〇,〇〇〇	【重役】	
新(三・五)	一,六〇〇,〇〇〇	重役 頭取	佐藤喜一
【株主】三・三	八五〇,〇〇〇	重役 常務	大坪俊次
三井高公	一八,三三八名	重役 常務	高橋龍雄
三井報恩會	七九二,八五〇	重役 常務	酒井
	四〇〇,〇〇〇	重役 常務	同率 配當

三菱銀行

〔設立〕大正八年八月
〔決算期〕三月 九月

(本店) 東京都千代田区麹町九ノ内二丁目五
(電九ノ内三三三)

〔整備は樂觀期待〕補償打切りに伴う影響はまだハツキリしないが、一時の大悲觀見透しよりやゝよいことは確かだ。むろん、十分の一減資は既定の事實、第二封鎖の打切りが大きいことも明かだ。
【現況】預金は最近やゝ増加傾向にあるが、日銀貸出の引締めと低金利、經營増で、業況はやつと尻を合せる程度に推移している。

【事業】一般銀行業、貯蓄銀行業	貯	三菱本社	二九九,〇八六
【資本金】公稱	一三五,〇〇〇	東京海上火災	一七〇,九四〇
【株数】		第百生命	一二五,五九六
舊(五〇)	一,三八八,〇〇六	三菱信託	一〇七,九三〇
新(三・五)	一,一六三,〇〇〇	【重役】	
【株主】三・三	一四九,九九四	重役 專務	小笠原光雄
持株會社	六,六六五名	重役 專務	松村均
	三二八,六二二	重役 專務	吉田信
		重役 專務	川原
		重役 專務	同率 配當

安田銀行

〔設立〕大正十二年十一月
〔決算期〕三月 九月
〔本店〕東京都千代田區大手町
〔電丸ノ内〕三三三二・三三六一

〔比較的〕可〕金融機關の整理は複雑で、現在確定的なことはわからない。しかし當行の場合には直接の軍需會社に對する融資がすくないから、他に比較なればめくまれている。勿論資本金の九割は切捨てねばならぬが第二封鎖は幾分残る見込みである。はじめの豫想では七億圓程度の補償を必要としたが、情勢に變化なきかぎりまづ第二會社まではゆかぬだろう。

【事業】金融業	一七〇、〇〇〇	安田生命	一三四、八〇一
【資本金】公稱	一〇三、七〇〇	貯蓄銀行	一三、九〇九
【株数】		【重役】頭取	井尻芳郎
新(五〇)	一、一三四、〇〇〇	取締役	迫静二
新(二五)	九、五〇〇、〇〇〇	武彦	金子銳
【株主】三・三	一三、七九六名	田三郎	小池光
安田保善社	八四、九三八	並山二郎	神尾武雄
安田興業	三〇二、一五五	佐藤敏雄	牧元隆雄
持株會社	二二七、四七五	監査	保坂時太郎
		【業績】純益	同率 配當

東京銀行

〔設立〕昭和廿一年十二月
〔決算期〕三月 九月
〔本店〕東京都中央區日本橋本石町一ノ六
〔支店〕支店二六 出張所五

〔好調〕正金の第二會社として出資したのが昨年十二月。普通銀行業務は初めてであつて苦勞も多かつたが、支店網を擴充して預金を集めた結果、成績良好。三月の初決算では四分配當をつけた。
〔今後〕貿易再開も正金の後進とはいへ直接の影響はない。現況をどこまで伸ばすかが問題だ。當分預金吸収に努力が集中される。

【事業】金融業	一〇〇、〇〇〇	【重役】頭取	濱口雄彦
【資本金】公稱	一〇〇、〇〇〇	常務	大江清
【株数】		省三	伊藤院虎一
新(五〇)	二〇、〇〇〇	取締役	堀江雄
新(二五)	一〇、〇〇〇	見信平	吉原謙六
【株主】三・三	一〇、〇〇〇	太田輝夫	福岡道
新日本生命	一〇、〇〇〇	越光輔	福岡道
日本生命	一〇、〇〇〇	【業績】純益	同率 配當
富國生命	一〇、〇〇〇		
第一生命	一〇、〇〇〇		
明治生命	一〇、〇〇〇		

三和銀行

〔設立〕昭和八年十二月
〔決算期〕三月 九月
〔本店〕大阪市東區今橋三ノ二
〔電福島〕二七〇一

〔預金〕八月十日の銀行預金約九千五億圓が本年三月には新勘定九十二億圓内自由四十五億圓勘定十四億圓計百六億圓となつてゐる。信託部の指定金銀信託は八月十日の七億五千萬圓と大した増減はない。
〔第二切捨〕三月末信託部の舊勘定は一億七千萬圓で、銀行部信託部共、舊勘定の切捨率は七割以下に止るだらう。

【事業】銀行、信託	一、三三二、八〇〇	【重役】頭取	渡邊忠雄
【資本金】公稱	八九、七四九	常務	西浦正
【株数】		大助	河村良介
新(五〇)	一、一三三、九六〇	村八郎	上技一雄
新(二五)	一〇七、五〇〇	取締	陶山保次郎
【株主】三・三	三三三、五〇〇	金井六郎	市川通之
山口合名	一三三、〇〇〇	【業績】純益	同率 配當
	二〇九、六九〇		

住友銀行

〔設立〕明治四十五年十一月
〔決算期〕三月 九月
〔本店〕大阪市東區北濱五丁目
〔電土佐堀〕二八八九・二九二四

〔預金〕四月末の新勘定預金は概算九十億圓で、舊勘定は三和銀行の銀行部門のそれを少し上廻る様だ。當行は八月十日には約百億圓の預金があつた譯だから、兩行はほぼ同位にある。
〔第二切捨〕併し當行の貸付先の主位たる扶桑金屬が賠償指定を受けてゐるから、第二封鎖の切捨は七割以上に及び、第二銀行の設立は不可避であらう。

【事業】銀行	七三、六七五	【重役】常務	山内直元
【資本金】公稱	五三、六七五	鈴木剛	堀田庄
【株数】		松本三郎	岩崎喜八
新(五〇)	四〇〇、〇〇〇	郎	西本純平
新(二五)	四〇〇、〇〇〇	清瀧幸次郎	菅原林
【株主】三・三	四、五二四名	岩田岩雄	菅原林
日本生命	一三、〇〇〇	【業績】純益	同率 配當
天野合名	一三、〇〇〇		
持株整理委員會	一三、〇〇〇		
除移讓分	二一、三九〇		
	二一、八二二		

野村銀行

〔設立〕大正七年五月
〔決算期〕三月 九月
〔本店〕大阪市東區備後町二ノ二
〔電話〕新町四三〇一八

〔業況〕銀行勘定では四月末の第二封鎖は四億一千萬圓、第一封鎖は十二億二千萬圓、自由預金は十五億圓で、昨年八月以降自由預金は十二億圓近い増加だ。四月末の金銀信託は第二封鎖八千五百萬圓、第一封鎖九千萬圓、自由預金九千三百萬圓だ。

〔第二封鎖〕補償打切の影響は約三億五千萬圓と見込まれるから、第二封鎖は約六割切捨か。

【事業】銀行、信託	野村元五郎	七九、四三〇
【資本金】公稱	野村合名	二、〇〇〇
【株数】新	重役 専務 有松潤一	二〇〇,〇〇〇
【株数】舊	常務 寺尾威夫	二〇〇,〇〇〇
【株主】	取締 吉村茂三郎	二〇〇,〇〇〇
野村徳七	半田清 峯村英三郎	二〇〇,〇〇〇
野村恵二	森原元夫 山本正志	二〇〇,〇〇〇
野村生命	【業績】純益 同率 配當	二一、八〇〇

神戸銀行

〔設立〕昭和十一年十二月
〔決算期〕六月 十二月
〔本店〕神戸市生田區浪花町五六
〔電話〕元町三三〇一〇

〔打切損〕軍需融資の回収不能分は僅少と目され、所有証券の評價損回収不能の外國證券等を加算しても、損失合計額は一億數千萬圓程度と押へられる。これの整理に伴い第二封鎖にどの程度の影響があるかは明確でないが一五%程度の切捨で済むもの様だ。

〔経費増加〕預金は増加しつつあるが、人件費等の増嵩も多く、経営は當面樂ではない。

【事業】一般銀行業並信託業務	神和會	四九、七三六
【資本金】公稱	岡崎本店	一〇、〇〇〇
【株数】新	重役 會長 住吉四郎	二〇〇,〇〇〇
【株数】舊	頭取 岡崎忠副	二〇〇,〇〇〇
【株主】	小林芳夫 常務 廣	二〇〇,〇〇〇
新	田傳左衛門 同率 配當	二一、八〇〇

東海銀行

〔設立〕昭和十六年六月
〔決算期〕三月 九月
〔本社〕名古屋市中區御幸本町通八八
〔支社〕東京都中央區日本橋通一ノ五

〔預金打切率〕當行の舊勘定規模は小さい。二十二年三月末の預金額でみると、舊勘定預金は預金總額の一割一分見當である。但しむろん舊勘定貸出額はもつと大きく、貸出總額の四割二分に當り、舊勘定預金の二倍三分見當になる。この舊勘定貸出にどれだけのかは未詳だが、預金が少いだけに第二封鎖の打切率はかなり高いとみてい。

【事業】銀行業	伊藤本社	一〇、〇〇〇
【資本金】公稱	德川義親	九、八三七名
【株数】新	重役 頭取 鈴木享市	二〇〇,〇〇〇
【株数】舊	副 金子嘉徳	二〇〇,〇〇〇
【株主】	青木好之 古關周藏	二〇〇,〇〇〇
新	宇賀鶴雄 櫻木定彦	二〇〇,〇〇〇
佐々部晚徳	【業績】純益 同率 配當	二一、八〇〇

南都銀行

〔設立〕昭和九年六月
〔決算期〕三月 九月
〔本社〕奈良市橋本町

〔打切損〕他の地方銀行と同じく當行の軍需補償打切り損は比較的少い。二十二年三月末における舊勘定所屬の有價証券は五千三百萬圓貸付金は四千六百萬圓である。このうちどれ位切捨てられるか不明だが、一億一千九百萬圓の舊勘定預金(第二封鎖)の相當部分は生きるだろう。但し多少でも第二封鎖預金を切捨てる以上資本金の九割減資は免れない。

【事業】銀行業	專務 增井正夫	一〇、〇〇〇
【資本金】公稱	勝井善次郎	一〇、〇〇〇
【株数】新	三郎 松尾四郎	二〇〇,〇〇〇
【株数】舊	本泰造 西尾小五郎	二〇〇,〇〇〇
【株主】	永田藤兵衛	二〇〇,〇〇〇
依田忠一	【業績】純益 同率 配當	二一、八〇〇
松尾四郎		

三井信託

【設立】大正十三年四月
【決算期】三月 九月

（本社）東京都中央区日本橋室町二ノ一ノ一
（支店）東京、横濱、名古屋、大阪、京都、福岡

【第二封鎖】當社は第二會社の必要はない見込である。つまり、資本金は十分の一になるからうが、第二封鎖の打切率は七割をこえないからだ。信託勘定の運用面で外國證券、株式の少いことは今となつては強味だから、第二封鎖の生きたる率は三割を優に上廻ろう。

【當面不振】金銭信託は不振で、不動産、證券の賣買仲介が主だから當面多難だ。

【事業】信託業	【重役】社長 林賢材
【資本金】公稱 二〇、〇〇〇	常務 佐渡卓 龜岡
【株数】(一三・五) 七、五〇〇	英一 取締役 金杉臺
【株主】(一三・五) 六九六名	三三 三木義雄 永野
三井報恩會 五〇、〇〇〇	正 監査 清水直作
三井高公 五〇、〇〇〇	若林祐治郎
三井本社 四六、五三〇	【業績】純益 同率 配當
東京海上火災 一〇、九〇〇	
帝國銀行 一〇、七〇〇	

三菱信託

【設立】昭和二年四月
【決算期】三月 九月

（本社）千代田區丸ノ内二ノ六（電丸ノ内二九八）
（支店）大阪、名古屋、福岡、京都、神戸、横濱

【損失と補償】外國證券五千三百萬圓の外資金統合銀行への舊勘定貸付金一億八千八百萬圓、社債六千萬圓、手形貸付一億三千萬圓の相當部分が損失に計上されるが、負債の切捨は金銭信託七億八千萬圓の半ばを占める舊勘定の七割位の見込。

【今後の問題】資産の切崩しは資本金の九割に止り第二會社設立の必要はないと見られる。

【事業】信託業	【重役】社長 池田謙藏
【資本金】公稱 三〇、〇〇〇	常務 佐藤純一 甘波
【株数】(一三・五) 七、五〇〇	邊軍六 取締役 甘波
【株主】(一三・五) 六九六名	二郎 中島辰三 吉
三井本社 一、六七七名	村壽一 監査 荒木
三井海上火災 一、四三〇	光太郎 原萬吉
東京海上火災 八六、五〇〇	【業績】純益 同率 配當
明治生命 五三、九七五	
三菱銀行 四〇、〇〇〇	
岩崎久彌 二〇、〇〇〇	

住友信託

【設立】大正十四年七月
【決算期】三月 九月

（本社）大阪市東區北濱五ノ二二
（電土佐堀二八四六・二八四四）

【預金】三月末の金銭信託は約八億七千萬圓で、昨年八月十日と大差ない。併し三月には約一億圓の財産税支拂のための預金引出があつたのだから、昨年八月と本年二月の間に一億圓の預金増加があつた譯だ。

【第二封鎖】三月末の第二封鎖は約二億五千萬圓、第一は四億一千万圓、自由預金は二億一千万圓だ。第二封鎖は七割に近い切捨とならう。

【事業】銀行、信託	【重役】社長 熊谷榮次
【資本金】公稱 二〇、〇〇〇	常務 西村半次郎
【株数】(一三・五) 七、五〇〇	澤野三郎 藤井享
【株主】(一三・五) 四〇〇、〇〇〇	飯田富雄 和栗陽
住友銀行 一、九三二名	山本弘 監査 大島
住友左衛門 一六〇、六一五	久太郎 能瀬茂人
住友本社 六、一七〇	【業績】純益 同率 配當
阿部彦太郎 五、〇〇〇	
麻生鏡業 三、一〇〇	

第一信託

【設立】大正九年五月
【決算期】三月 九月

（本社）東京都中央区京橋一ノ一〇（電京橋四二九）
（支店）大阪、名古屋、京都、下關

【損失と補償】外國證券は二千四百萬圓その他資金統合銀行への舊勘定貸付一千七百萬圓、社債五千四百萬圓、手形貸付金一千七百萬圓等の一部は資産損失となるが、負債の切捨は第二封鎖をなお三、四割残す筈。

【今後の問題】資産の切崩しは資本金の九割に止り、従つて政府補償は不要であり、第二會社設立の必要もないと見られる。

【事業】各種信託業	【重役】會長 齊藤太市
【資本金】公稱 一〇、〇〇〇	常務 宮崎正二
【株数】(一三・五) 二、〇〇〇	綿田中二郎 松田
【株主】(一三・五) 九三〇名	新一 阿部嘉吉 小崎
帝國銀行 一四八、二三四	太 監査 加藤悌
小野義夫 五、〇〇〇	【業績】純益 同率 配當
山本興業 三、〇〇〇	

第一生命保險相互

【設立】三月(年一四)

(本社)東京都中央区京橋三丁目

【損失と補償】不動産の評価替が許されず、在外資産の四億二千萬圓全損は痛い、當事者は政府補償は不要で、第二會社設立の必要はないと見込んでいる。

【今後の見込】第二會社設立の有無に拘らず、現在總經費の九五%を占める人件費のインフレに伴う膨脹は經營を壓迫しよう。契約高は八月十日百二十一億圓、四月末百四十億圓。

吉兵衛

【事業】生命保險業
 【資本金】基金 二〇〇
 【重役】會長 矢野恒太
 社長 石坂泰三
 取締役 森村常
 務 矢野一郎
 左衛門 服部 齋藤 三
 松本健太郎 齋藤 三
 常務 鈴木敏一 齋藤 三
 監 今村繁三 濱口

千代田生命保險相互

【設立】明治三十七年四月
 【決算期】三月(年一四)

(本社)中央区京橋二ノ二(電京橋二〇一六)
 (支社)大阪、京都、外全國六十餘カ所

【損失と補償】投融資先の整理が未決なので、損失計算も殆ど立っていないが、八月十日決算指示により準備金が十億圓を超えたので、一億五、六千萬圓見當の要補償額が見込まれる。

【今後の見込】専ら經營の合理化により業績の向上に務めている。新會社設立は未定であるが新發足は八月以降になる見込。契約現在高は昨年八月十日六十五億圓、今年四月末七十五億。

【事業】生命保險事業
 【資本金】基金 三六〇

【重役】社長 濱忠次郎
 常務 氣賀眞一郎
 取締役 山室祐之矢
 川野清一郎 原田辰
 男 監査 名取和作

【業績】純益 同率 配當

明治生命保險

【設立】明治十四年七月
 【決算期】三月(年一四)

(本社)東京都千代田區丸ノ内三ノ六
 (支社)東京都中央区江戸橋一ノ十一

【損失と補償】在外資産で約四億八千萬圓補償打切で一億二千萬圓、計六億圓損失を計上しているが、十六億六千萬圓の準備金のうち新勘定分は約十億圓(六三%)に止まり、結局要補償額は一億五千萬圓以下の見込。

【今後の見込】七月頃相互組織の新會社により新發足するが、昨年八月八十四億圓の契約高は四月末既に九十五億圓と一割餘増大した。

【重役】社長 牧野龜治
 常務 稻田勤
 大坪金次郎 黒澤清作
 坂本神太郎 角井作
 治郎

【事業】生命保險
 【資本金】拂込済 二、七〇〇
 【株数】(株) 二七〇,〇〇〇
 (株主) 四七〇名
 田中完三 三、七四九
 高木健吉 二、七一一
 龜山俊藏 二、五七四
 岩崎久彌 二、二五〇
 森泉恒四郎 一、六六五

【業績】純益 同率 配當

帝國生命保險

【設立】明治二十一年三月
 【決算期】三月(年一四)

(本社)東京都千代田區丸ノ内一ノ一ノ二
 (支店)一二支店、四三支社、一九分室

【要補償】當社損失は在外資産一億八千萬圓をはじめ計三億三千万圓にのぼるが、責任準備金の切崩し、失効保險契約の削除等により要補償額は一億七千四百萬である。一應政府補償によつて息をつくとしても、人件費、諸經費の昂騰と、全資産に對する利廻りの不利、死亡率の上昇等によつて内容は相當に窮屈で、料率の改訂もこれを補填しえず、今後の契約増加が頼みだ

【事業】生命保險業
 【資本金】拂込済 三、七五〇
 【株数】(株) 七〇〇,〇〇〇
 (株主) 二六九名
 古河銀行 二、二四六
 古河從純 八、二四六
 帝國銀行 六、〇〇〇
 古河鐵業 三、〇〇〇
 小西合名 三、〇〇〇
 伊藤よね 三、二七〇

【重役】社長 行方孝吉
 常務 藤川博
 伊達充郎 山科勉
 豊田二郎 春山定
 數納清 似鳥勳
 色調武 監査 高木
 喜富 金井四郎

野村生命保險

〔設立〕明治二十八年二月
〔決算期〕三月(年一回)

(本社)千代田區大手町二ノ二(電廻町三三〇)
(支店)日比谷丸ノ内

〔損失と補償〕在外資産にて五千五百萬圓其他資産にて三千四百萬圓の損失が豫定され、總資産からこれを差引と殘高は二億八千七百萬圓で新勘定準備金三千八百萬圓に對し九千二百四十萬圓と不足となり、大むねこの位の金額の補償を要する見込。
〔今後の問題〕八月頃相互組織により、第二會社發足の筈。

〔事業〕生命保險業
〔資本金〕公稱 二、〇〇〇
株數 拂込 九〇〇
新(三五) 一〇〇、〇〇〇
株主 二八
野村銀行 一八、〇〇〇
野村殖産貿易 二、二〇八
野村合名 一、〇〇〇
野村徳七 〇、〇〇〇
野村徳七 〇、〇〇〇

〔重役〕社長 野村惠二 一、〇〇〇
専務 寺本雄造 富成宮吉
事務 椎名幸助 取締
守屋學而 下村彌一
松本文一郎 常監
松本元 常監
〔業績〕純益 同率 配當

三井生命保險

〔設立〕大正三年三月
〔決算期〕三月(年一回)

(本社)東京都中央区日本橋室町二ノ一
(電日本橋三二一三)

〔打切と損失〕昨年八月打切決算において缺損金一億四千四百八十四萬圓を計上したが、この點既に昨年三月末決算で有價證券二千六百萬圓の切下を逸早く斷行しており、且つ軍需株の所有も比較的少いから確定評價の場合有利だ。
〔今後〕一昨年十二月制限會社の指定を受け三井財團から脱却し、八月、三井生命相互會社として再發足の豫定。

〔事業〕生命保險
〔資本金〕公稱 二、〇〇〇
株數 拂込 五〇〇
株主 三三
三井商公 一八〇名
三井本公 二〇、〇〇〇
日本生命 一〇、〇〇〇
三井生命 一、八二九
三井商公 七三〇
三井本公 三六五
三井商公 二
三井本公 二
三井生命 二
三井商公 二

〔重役〕社長 須之内啓
二 郎 常務 溝江義
人 取締 清水善造
竹村久 石川忠治
常監 榊野勝治 監
查 根本勘吾

東京海上火災

〔設立〕昭和十九年三月
〔決算期〕三月

(本社)大田區入新井五ノ三四五(電大森二六)
(支店)札幌、函館、秋田、仙臺、前橋、東京、横濱

〔損失と補償〕在外資産喪失による一億四千二百萬圓その他併せて總損失約一億六千萬圓に及ぶが、積立金および各種準備金等一億七千萬圓の切崩しによつて補填可能、減資の要を認めず
〔今後の見通〕一月よりの保険料率の變更、貨幣價值が下落等の原因から、最近豫想外に加入者増加し、保険料收入激増のため、火災頻發の今は別として、將來は期待される。

〔事業〕損害保險事業
〔資本金〕公稱 八〇、〇〇〇
株數 拂込 六三、〇〇〇
新(三五) 八〇、〇〇〇
株主 三三
一、九八八名

〔重役〕社長 田中徳次
常務 稲垣末三
木幹 種田堅次郎 高
彌一 郎 取締 長島
三田次郎 和正 義
常監 岡田重資 中村 勇

安田火災海上保險

〔設立〕昭和十九年二月
〔決算期〕三月

(本社)東京都千代田區大手町一ノ六
(支社)大阪、神戸、京都、名古屋、横濱、福岡

〔損失〕在外資産その他損失合計五千五百萬圓これに對し準備金積立金中よりこれが補償にあてられるもの五千四百四十萬圓、差引四百萬圓は舊勘定帳尻から充分補填出来る模様。
〔今後〕今年春の飯田市や新橋、難波新地商店街の火災の影響が大きいが、反面料率の改訂インフレによる契約高増加により、本年度の保険料收入は前年の四倍を見込んでゐる。

〔事業〕損害保險業
〔資本金〕公稱 三三、九〇〇
株數 拂込 八、四七五
株主 三三
六七八、〇〇〇
安田保善社 三、一九八名
安田銀行 一、一五、九二一
安田生命 六八、九六四
安田貯蓄銀行 五九、三三三
日本貯蓄銀行 二八、七三三
安田信託 一三、七三三

〔重役〕社長 檜垣文市
常務 藤本一男 山取
緒男 玉木一介 山口
秀男 坂岡操 本多
清次 沼崎喜三郎
茂木剛 堀田俊明
渡邊武

日本火災海上保險

〔設立〕昭和十九年十月
〔決算期〕三月

〔本社〕中央區日本橋通二ノ四(電日本橋五二〇)
〔支社〕十八支店

〔損失と補償〕三月末假決算は新舊勘定合せて二千一百八十九萬圓の益に對し、損は在外資産三千二百四十四萬圓、代理店勘定等切捨二百十七萬圓、その他合計三千五百二十萬圓で、差引一千三百三十二萬圓の不足金を生ずるが、非常危険準備金一千六百八十八萬圓で補足して契約準備金にも手をつけずに済む筈。従つて補償の問題はない。

〔事業〕損害保險業

〔資本金〕公稱 三九、〇〇〇
拂込 九、九〇〇

〔株數〕(一・三) 三〇、〇〇〇
新(三・三) 六〇、〇〇〇

〔株主〕三三三 二、三三一名
第百生命 八二、七〇四
千歳商會 七四、〇五六
常陽銀行 四四、九〇〇
定徳會 三七、六七四

〔重役〕社長 齋田高三

右近保太郎 三六、九三〇
常務 松本純雄 稻
垣篤太郎 取締 積
田三郎 吉澤義雄 積
佐久間徹 今村慶太
藤竹之助 高知誠一
〔業績〕純益 同率 配當

日産火災海上保險

〔設立〕明治四十四年五月
〔決算期〕三月

〔本社〕東京都港區芝田村町一ノ二(電銀座五八九)
〔支店〕札幌、仙臺、新潟、金澤、横濱、名古屋、京都

〔損失と補償〕三月末決算で舊勘定は一千五百十七萬圓の益金をあげたが、外地關係の損失に一千七百萬圓があり、差引百八十萬圓のマイナスとなり、これだけは舊勘定の保險契約準備金のうちから切捨られることゝなる。〔今後の問題〕保險料と解約返戻金の差に對する保險金は八五%に上り、新勘定についての今後の動きが注目される。

〔事業〕損害保險業

〔資本金〕公稱 一六、〇〇〇
拂込 四、〇〇〇

〔株數〕(一・三) 三〇、〇〇〇
新(三・三) 六〇、〇〇〇

〔株主〕三三三 二、三三一名
日産 一五三、四三五
中村準一 三一、〇四一
中村土地證券 二七、二二三
中村準策 二二、九〇五

〔重役〕社長 永松利熊

副 中村準一 專務
平井重美 常務 川
奈部孝 佐々木秀一
恒吉辰男 末松友衛
取締 中村準策 佐
々木茂吉
〔業績〕純益 同率 配當

大正海上火災保險

〔設立〕大正七年十月
〔決算期〕三月

〔本社〕中央區日本橋通三ノ五(電日本橋五九四)
〔支社〕大阪、名古屋、神戸、福岡

〔減資の要なし〕新舊勘定分離の實狀を檢討するに、大體、資本金に手をつけずとも、諸積立金をくずせばこと足りる模様だ。〔問題は今後〕しかし、新勘定面の最近の業況は、損保全般の問題乍ら、餘り香しくない。各地に大火が頻發し、全體として損害率を高めてゐるからだ。従つて料率引上げと將來の海上保險の復活とに期待する外ない。

〔事業〕損害保險業

〔資本金〕公稱 二二、〇〇〇
拂込 五、七〇〇

〔株數〕(一・三) 三〇、〇〇〇
新(三・三) 六〇、〇〇〇

〔株主〕三三三 二、三三一名
三井本社 三三、一九〇
東京海上火災 三三、九四〇
三井生命 八、三〇四
閉鎖機關 四、六〇〇
三井信託 四、五八八

〔重役〕社長 山根春衛

常務 渡邊隆司 西内
田耕造 取締 植
南晴 油利正雄 植
原四郎 小橋庸三 下
常監 武田直次
村爲二
〔業績〕純益 同率 配當

同和火災海上保險

〔設立〕昭和十九年三月
〔決算期〕三月末(年一回)

〔本社〕大阪市東區今橋二ノ一九(電福島一三九)

〔減資不要か〕火災保險の處理もついたし、外國支店勘定の切捨ても積立金で補填できるから大して問題はない。有價證券の値下り損をどこまで見るかで變つて来るが、恐らく資本金には喰い込まずに整理できよう。〔問題は今後〕たゞ他の損保會社と同様、最近の火災頻發による保險金支拂が問題である。保險料を更に引上げてもらうことが必要だ。

〔事業〕保險業務

〔資本金〕公稱 四七、五〇〇
拂込 一一、八七五

〔株數〕(一・三) 九五〇、〇〇〇
新(三・三) 三、一八八名

〔株主〕三三三 三、一八八名
山口合資 三三、七〇〇
同和本店 三三、〇〇〇
廣海三三郎 三〇、〇〇〇
大成株式會社 二六、四三三

〔重役〕社長 岡崎眞一

常務 幸雄 光藤丘 草場
幸雄 古田中 豊文 富
田元 久野春之助 富
森信敬二 原良三郎
〔業績〕純益 同率 配當

株式ウィークリー

毎週月曜日発行
購読料 年三千圓
半年千五百圓

株式投資には二つの条件が必要である。

(一) 経済動向の見透し

(二) 会社内容の正確な調査

慢然と株式を賣買する人が多いが、この条件に遺漏のない人だけが結局の成功をおさめ得る。

東洋経済ほどの研究調査陣を持つていて、何故やらないのか、と今日まで各方面からその出現を待たれていたもの。

問題は山積している。株式を中心として財産運用の各般に亘る最高報道です。

東洋経済社 待望の投資指針 全陣容による

昭和二十二年九月刊 報季四社

昭和二十二年九月十五日印刷
昭和二十二年九月十五日發行

〔定價 四十圓〕

東京都中央区日本橋本石町三ノ二
編輯印刷兼發行 倉澤修之
東京都品川区上大崎町長巻丸二八四
印刷所 東洋經濟新報社印刷工場

發行所 東京都中央区日本橋本石町三ノ二 東洋經濟新報社

大阪市北區編笠町一 壹ビル七階
關西支社 振替大阪 二六八番
電話 關西川 二〇一三
神戸市生田區三宮町二ノ一八ノ一
神戸支局 振替神戸 二八八番
電話 振替神戸 二八八番
名古屋市中區新榮町六ノ九
名古屋支局 振替名古屋 四〇三番
電話 名古屋 二八五番
京都市下京區四條橋馬場角(京橋ビル)
京都支局 振替京都 二五八番
電話 京都 二五八番
岡山市内山下三〇ノ二(中國銀行内)
岡山支局 振替岡山 二五八番
電話 岡山 二五八番

福岡市天神町八六(日本生命館二階)
九州支局 振替福岡 二八七番
電話 福岡 二八七番
高松市丸龜町(高松百十四銀行内)
高松支局 振替高松 二二二番
電話 高松 二二二番
札幌市南一條西九丁目十四番地
北海道支社 振替小樽 四八番
電話 小樽 四八番
水戸市宮下町七三(東洋工業別館)
水戸支局 振替水戸 二二二番
電話 水戸 二二二番
甲府市堅道町二十七番地
甲府支局 振替甲府 二二二番
電話 甲府 二二二番
金澤市石浦町十一(北銀ビル内)
北陸支局 振替金澤 二二二番
電話 金澤 二二二番

配給元 東京都千代田區神田區神田區路町二ノ九
日本出版配給株式會社

14.5
817

公社債株式業務一般

大阪商事株式會社

本店 大阪市東區今橋五

支店 東京都中央區日本橋江戶橋一
電話(土佐堀)代表(44)七六〇
電話(福島)代表(45)二七九一
電話代表日本橋(24)一三九五

公社債・株式賣買

株式會社 黒川商店

社長 黒川 福三郎

大阪市東區北浜二丁目一番地

電信掛號才サカカブヲカワ・電話代表新四二〇〇

投資指針月刊株式羅針報贈呈

有價證券業

武田證券株式會社

大阪市東區北濱一丁目

代表電話堀川(35) 31・32・68・69

營業要目

- 一、公社債、株式の引受募集並に賣買
- 一、投資信託に關する業務
- 一、公社債元利金の支拂、株式配當金取扱代理事務

野村證券株式會社

本店 東京都中央區日本橋兜町一丁目

電話(代表)茅場町 二二〇三—八三一八四—八

大阪支店 大阪市東區安土町一丁目

電話新町 三四〇・七八〇

名古屋支店	名古屋市中區廣小路	電話(代表)	二一八五—
京都支店	京都市下京區四條通	電話(代表)	二一八五—
神戸支店	神戸市生田區海岸通	電話(代表)	二一八五—
岡山支店	岡山市北區三軒屋	電話(代表)	二一八五—
廣島支店	廣島市三區三軒屋	電話(代表)	二一八五—
高松支店	高松市古新町	電話(代表)	二一八五—
門司支店	門司市西本町	電話(代表)	二一八五—
福岡支店	福岡市上西町	電話(代表)	二一八五—
金澤支店	金澤市南一丁目	電話(代表)	二一八五—
新潟支店	新潟市本町	電話(代表)	二一八五—
静岡支店	静岡市葵服町	電話(代表)	二一八五—
札幌支店	札幌市南一條西四丁目	電話(代表)	二一八五—
仙台支店	仙台市南町	電話(代表)	二一八五—

終